令和4年度
実施結果報告書
《技術の検証・情報提供及び普及》

事業名称：「丸ごとセンター(地域ケアステーション)」
整備事業

補助事業者 :特定非営利活動法人コレクティブ
共同事業者:医療法人　フロネシス
居住福祉空間研究所
山口健太郎(近畿大学)

令和5年12月

０．提案の概要

①提案事業の目的

包括支援型・包括報酬型の地域ケア拠点（小規模多機能・看護小規模多機能・ＧＨ・ケア付き住宅）を圏域単位に計画的に整備するモデルを目指す。
多様な地域資源を活用した「コミュニティビジネス」としての生活支援サービスの創出、住まいの多様化による居住保障と個人支援＋地域支援＝地域全体の人的・物的資源を活用する「地域マネジメント」の拠点を創る。(次ページ図)

②提案事業の内容

●住宅等の整備

小規模多機能型居宅介護を核にした地域ケア拠点=丸ごとセンターを計画し、「令和６年度熊本市高齢介護福祉施設整備」に応募し、整備を図る。

●技術の検証

3項目について検証する。

●情報提供及び普及

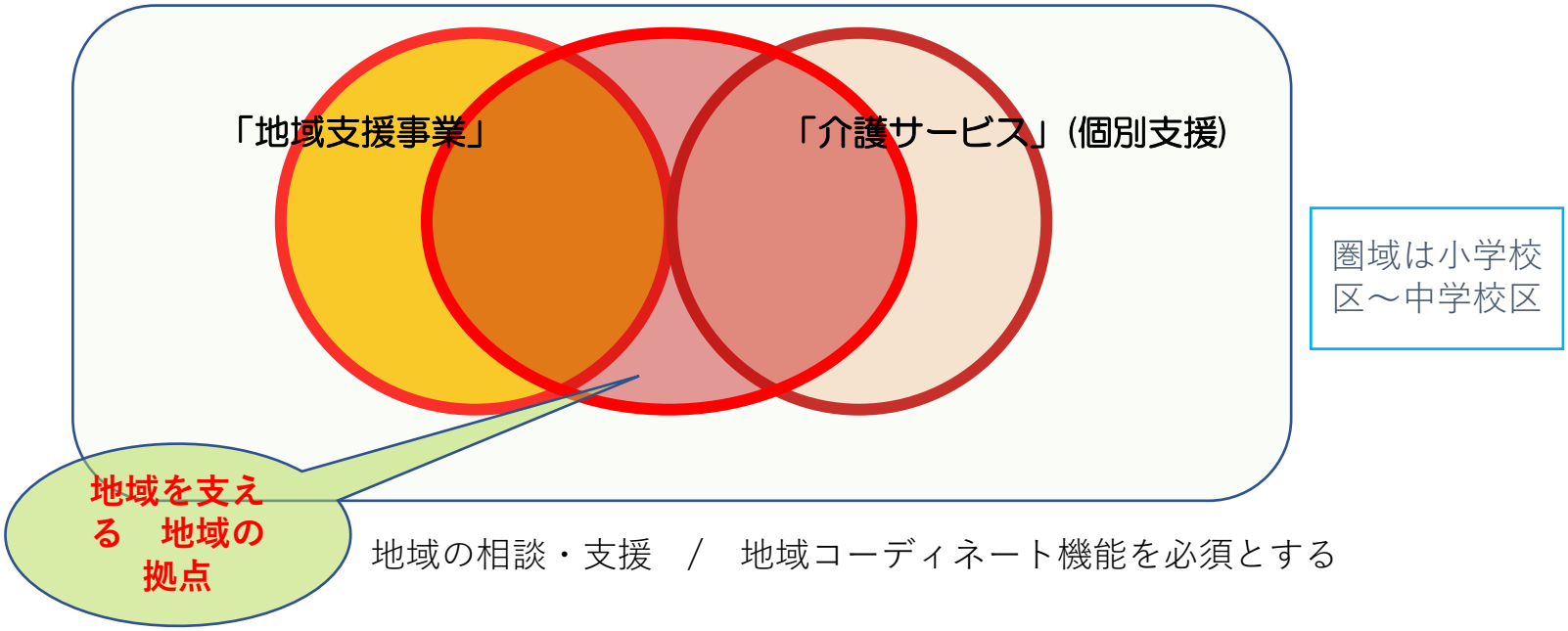
講習会の開催、ホームページ開設等を実施し、広報し情報提供を図る。

提案事業の目的図

これからの構想

ミクロ(個)とメゾ(地域)をつなぐサービス拠点

地域のコーディネートを行う機能(相談支援の機能と合わせて)を持つ、地域の拠点
「地域ケアステーション(丸ごとセンター)」(仮称)を創る



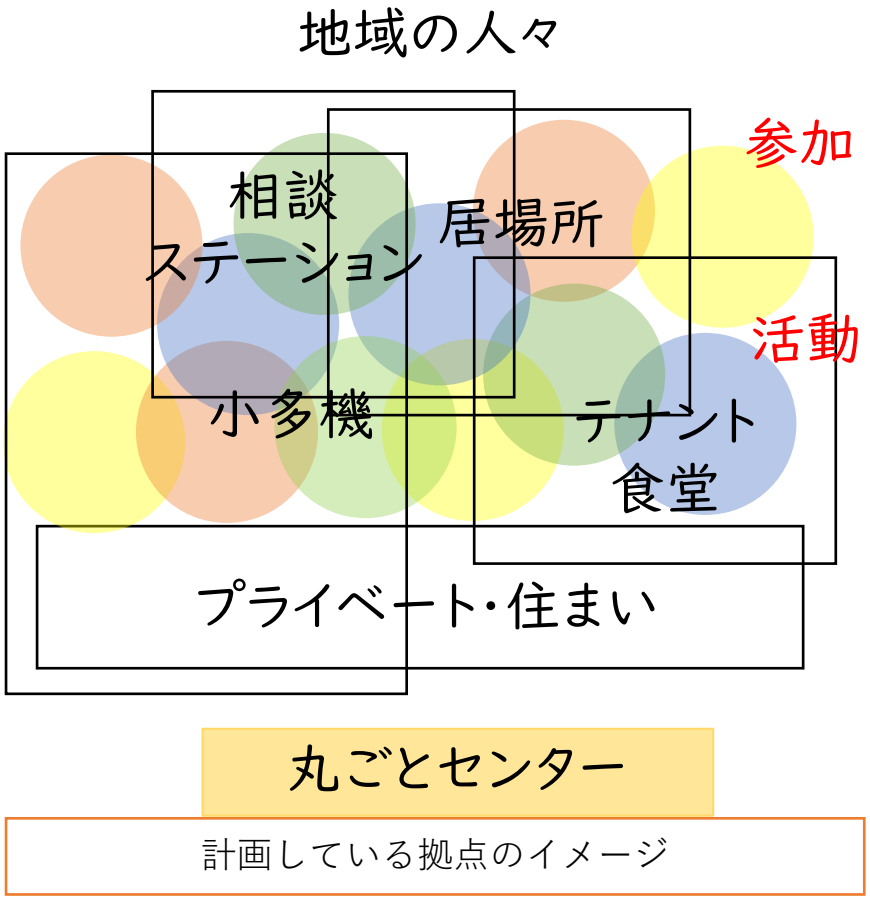
提案事業の目的

丸ごとセンター

- 地域密着型サービス事業所が総合相談機能を持ち、その運営財源も確保できる方向になった。(制度改正)

- しかし、その実践モデルはこれからである。

- 地域共生社会づくりを想定した仕組みを実践の中から実現できるように取り組む。



１．技術の検証 （１）相談・支援事業

①検証の目的・問題意識

・「相談ステーション」の試行的実施から本スタートに向けた準備と支援体制の確立を図る。
運営の中から必要なスタッフ・空間を抽出する。

相談支援の在り方を考える

②仮説の設定

いわゆる公的相談所ではなく、だれもが相談でき、必要に応じて即支援も行う「場」を創る。
これは、地域の中で暮らし続けるために、先ず必要な機能ではないか?

③検証方法

・相談できる場を実際につくることにより、その活動を地域住民に知ってもらう機会を得ることができる。
・活動についてはSNSやチラシなどを使って積極的に周知していく他、ホームページを通して相談も受け付ける。
http://marugotocenter-tsukide.com

地域の困りごとの相談を行うなかで、地域のニーズ把握を行う。
また、地域住民に対する意識調査事業の質問項目作成につなげる。

④検証の結果

相談件数は、月1件(計8件)程度と少なかった。それも当方から地域に出向いてのアウトリーチ型での活動の中からの相談がほとんどであった。
・地域での困りごとを、単に「相談できる場があります」では地域の方からの相談は「介護サービスの案内」に絞られる。
・アウトリーチでの活動の中からは、小学校の校長から「当小学校では朝食を食べずに登校する学童が15%になる。これはどうにかしないといけない課題だと思うが、学校だけでは解決できない。一緒に取り組む方々がいないか等の相談を受ける。県立大学の先生・学生とこども食堂を準備する。
・また、大学の教員からも学生と一緒に認知症の方々の見守り活動を行いたい旨の話があり、実際の活動につなげた。
・また、次項目の地域アンケートでも、緊急時の相談窓口やよろず相談の窓口のニーズが高く必要性が示された。
・コロナ禍の影響で、「集いの場」が機能していないことがあり、そうした集う場で相談を受けることは有効と思うが、本事業では検証できていない。

相談・支援の機能は必ず必要であるが、単に窓口が有れば良いということではなく、アウトリーチ(訪問、出前)型もしくは集う場での活動から相談・支援につなげることが問われる。

１．技術の検証（２）地域人材発掘事業および地域住民に対する意識調査事業

①検証の目的・問題意識

「地域で住み続けるということ」についての住民意識の検証
・民生委員等が集うことができる場を実際につくり、運営を行うことで、相談の場に対するニーズや運営方法についての課題を抽出する。

②仮説の設定

認知症カフェのように支援する側の悩みをも相談できる場を創る。
制度によるサービスだけでは支えられないことを、地域住民と共有し、支える側と支えられる側の2分法から脱却を検討する。こうした意識変化から新たな介護人材の創出や在宅看取りの促進に与える影響について検討する。

③検証方法

地域の人材発掘のための集いの開催(講師による講演を含む)
地域住民に対する意識調査事業
・アンケート（個人が対象）に合わせて住み慣れたこの地域で住み続けることができる仕組みがつくれていくことが可能なことを情報発信する

残念なこととして、集いの場への参加の促進を予定し、その中で人材発掘と意識調査を実施する計画であったが、コロナ禍で集うことに地域の方々から躊躇いの言葉があり、このことは無理しないように実施を見送った。

④検証の結果

アンケート、ヒヤリング結果報告は次に添付の通りとなった。
約7000世帯へアンケートとヒアリング　　回答数251　有効回答201

まとめとして下記がのことが言える。
モデルとした地域は住みやすく、今後も住み続けたい人が多い
本地域の利便性は良い
しかし渋滞がひどいことが不満となっている。
後期高齢期に不安に思うことは、自身の健康状態と介護
計画している小規模多機能施設については、アンケートに応じた方の約60%が利用したいと回答した。
施設に欲しい機能は、24時間365日対応・緊急時の相談・定期的な見守りであった。

地域の人財発掘は、この8ケ月で多様な人と出会い、結びつくことができた。
地域の役職者のみならず、「私は食事作りが得意なので、活動の場があればボランティアとして活動したい」「退職後家にいる。社会のためにできることをやりたい」等と言った方々とも出会った。
また、大学との関係づくりの中で、大学生が継続した地域の人財として活動していく礎がつくれた。

実施した地域アンケート(熊本市月出校区)と結果

『熊本市東区月出地域を対象とした住まい環境評価 アンケート調査』

問1. 回答者について

性別 ※あてはまるもの１つを選択	年齢	世帯構成 ※あてはまるもの１つを選択
男・女・どちらでもない・回答しない	歳	単身世帯・夫婦のみ世帯・親と子の世帯・三世代世帯・その他

職業 ※あてはまるもの１つを選択	月出地域での居住年数
会社員・公務員・自営業・専業主夫（婦）・パート・無職・学生・その他	年

ご自身の健康状態について	これまでどなたかの介護をした経験はありますか
たいへん良好 ― やや良好 ― どちらともいえない ― やや不安がある ― たいへん不安がある	ある・ない ※「ある」場合 その内容をご記入ください （　　）

問2. 現在の住まいについて

（1）現在の住まいの所有形態について ※あてはまるもの１つを選択

持ち家（戸建て）・持ち家（集合住宅）・賃貸（民間賃貸）・賃貸（公営住宅）・その他（　　）

（2）現在の住まいに住むことになったきっかけ ※複数選択可

昔から住んでいた・進学・就職・住宅購入・公営住宅入居・その他（　　）

（3）現在の住まいの間取り ※あてはまるもの１つを選択

1R・1K・1DK・1LDK・2K・2DK・2LDK・3K・3DK・3LDK・4K・4DK・4LDK・その他（　　）

（4）現在の住まいの評価	（5）現在の住まいに今後も住み続けたいですか
たいへん住みやすい ― やや住みやすい ― どちらともいえない ― やや住みにくい ― たいへん住みにくい その理由（　　）	おおいに思う ― やや思う ― どちらともいえない ― あまり思わない ― まったく思わない その理由（　　）

問3. お住まいの地域について

（1）月出地域は住みやすいと思いますか	（2）月出地域に今後も住み続けたいと思いますか
たいへん住みやすい ― やや住みやすい ― どちらともいえない ― やや住みにくい ― たいへん住みにくい その理由（　　）	おおいに思う ― やや思う ― どちらともいえない ― あまり思わない ― まったく思わない その理由（　　）
（3）人生の終末期を月出地域で過ごすことに不安はありますか	（4）月出地域での地域活動に参加していますか
まったくない ― あまりない ― どちらともいえない ― やや ある ― おおいにある その理由（　　）	参加している・参加していない ※「参加している」場合その内容をご記入ください （　　）

（5）月出を含む周辺地域で、よく利用する施設を、下記の欄にご記入ください ※自由記述

問4 終末期について

（1）下記の選択肢の中で、あなたが後期高齢期に不安に思うこと、全てに〇を付けてください。

①健康　②病気　③認知症　④介護が必要になること　⑤収入・貯蓄　⑥財産の相続　⑦頼れる人がいない
⑧子や孫の将来　⑨配偶者の将来　⑩その他（　　）

上で選択した項目の中で、最も不安に思うこと、２番目、３番目に不安に思う項目の番号を、（　）の中に記入してください。 例：最も不安に思うこと（ ③ ）

最も不安	（　）	2番目に不安	（　）	3番目に不安	（　）

（2）下記の選択肢の中で、あなたが人生最後の場所を選ぶ際に重視すること、全てに〇を付けてください。

①長く住んでいる　②知縁（親族・友人）のある場所　③地縁（出身地等）のある場所　④生活利便性
⑤医療サービスの充実　⑥介護サービスの充実　⑦家族の近く　⑧地域活動ができる　⑨その他（　　）

上で選択した項目の中で、最も重視すること、２番目、３番目に重視する項目の番号を、（　）の中に記入してください。 例：最も不安に思うこと（ ③ ）

最も重視	（　）	2番目に重視	（　）	3番目に重視	（　）

（3）人生の最後をどこでむかえたいと思いますか。 ※あてはまるもの１つを選択

①自宅　②介護施設　③病院　④緩和ケア施設　⑤ホスピス　⑥わからない　⑦その他（　　）

上で「①自宅」選択した方は、その際、主に誰に介護してもらいたいですか。※あてはまるもの１つを選択

①配偶者（パートナー）　②子　③子の配偶者　④孫　⑤兄弟姉妹　⑥介護専門職　⑦分からない　⑧その他（　　）

問5 当法人が月出地域に計画している新しい施設について

（1）当法人では、月出地域に小規模多機能ホーム、介護予防等を複合した介護・ケア施設を計画しています。そのような施設を将来ご自身が利用したいと思いますか。※あてはまるもの１つを選択

①おおいに思う　②やや思う　③どちらともいえない　④あまり思わない　⑤まったく思わない　⑥わからない

（2）ご自身やご家族が在宅医療・在宅介護サービスを利用することで現在の住まい・地域に住み続けられる場合、そのようなサービスを将来利用したいと思いますか。※あてはまるもの１つを選択

①おおいに思う　②やや思う　③どちらともいえない　④あまり思わない　⑤まったく思わない　⑥わからない

（3）下記の選択肢の中で、当法人が計画する施設にどのようなサービス・機能があればよいと思いますか。あてはまるもの全てに〇を付けてください。

①よろず相談窓口　②24 時間 365 日対応　③定期的な見守り　④緊急時の相談　⑤緊急時の宿泊
⑥子どもの居場所　⑦コミュニティカフェ　⑧子ども食堂　⑨フリースペース　⑩その他（　　）

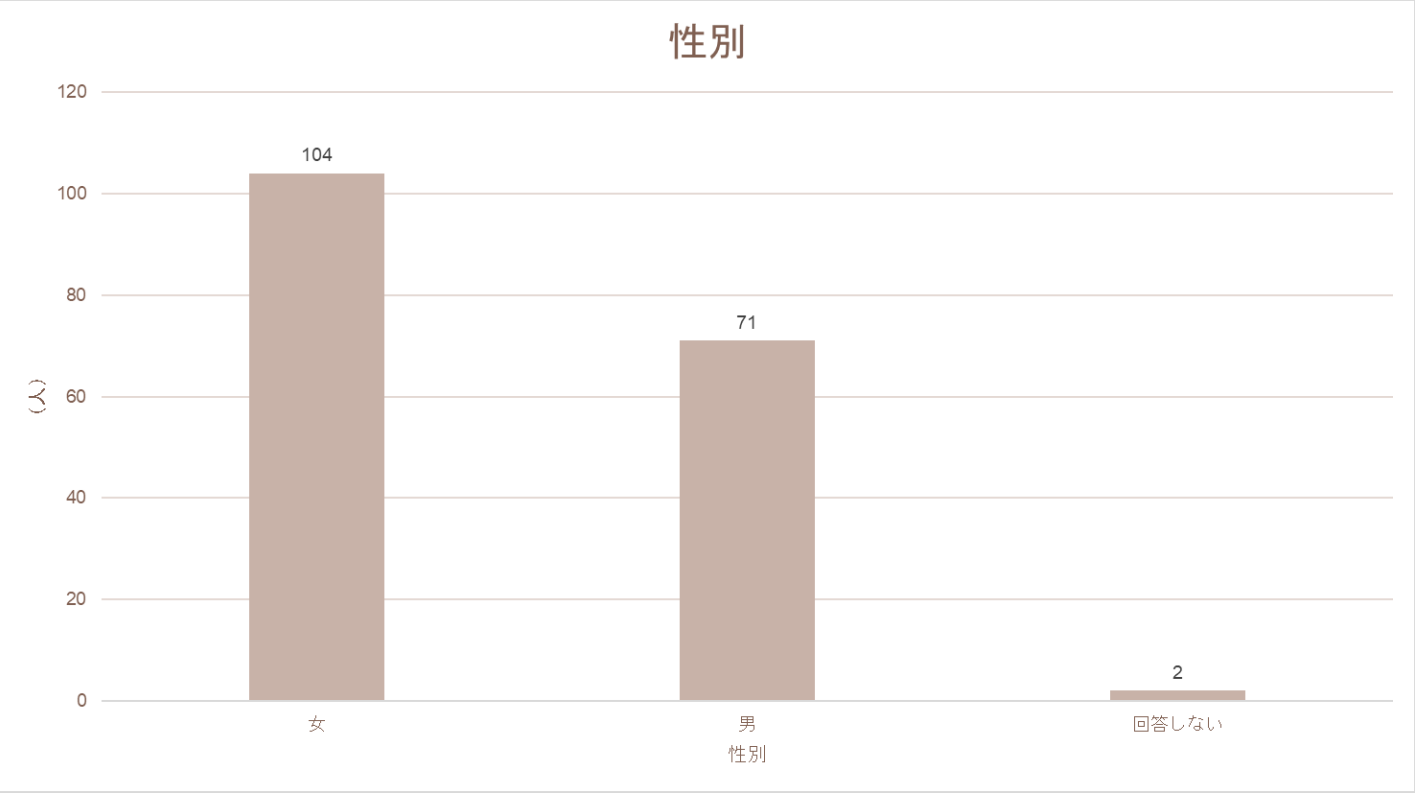
上で選択した項目の中で、最も希望すること、２番目、３番目に希望する項目の番号を、（　）の中に記入してください。 例：最も希望すること（ ③ ）

最も希望	（　）	2番目に希望	（　）	3番目に希望	（　）

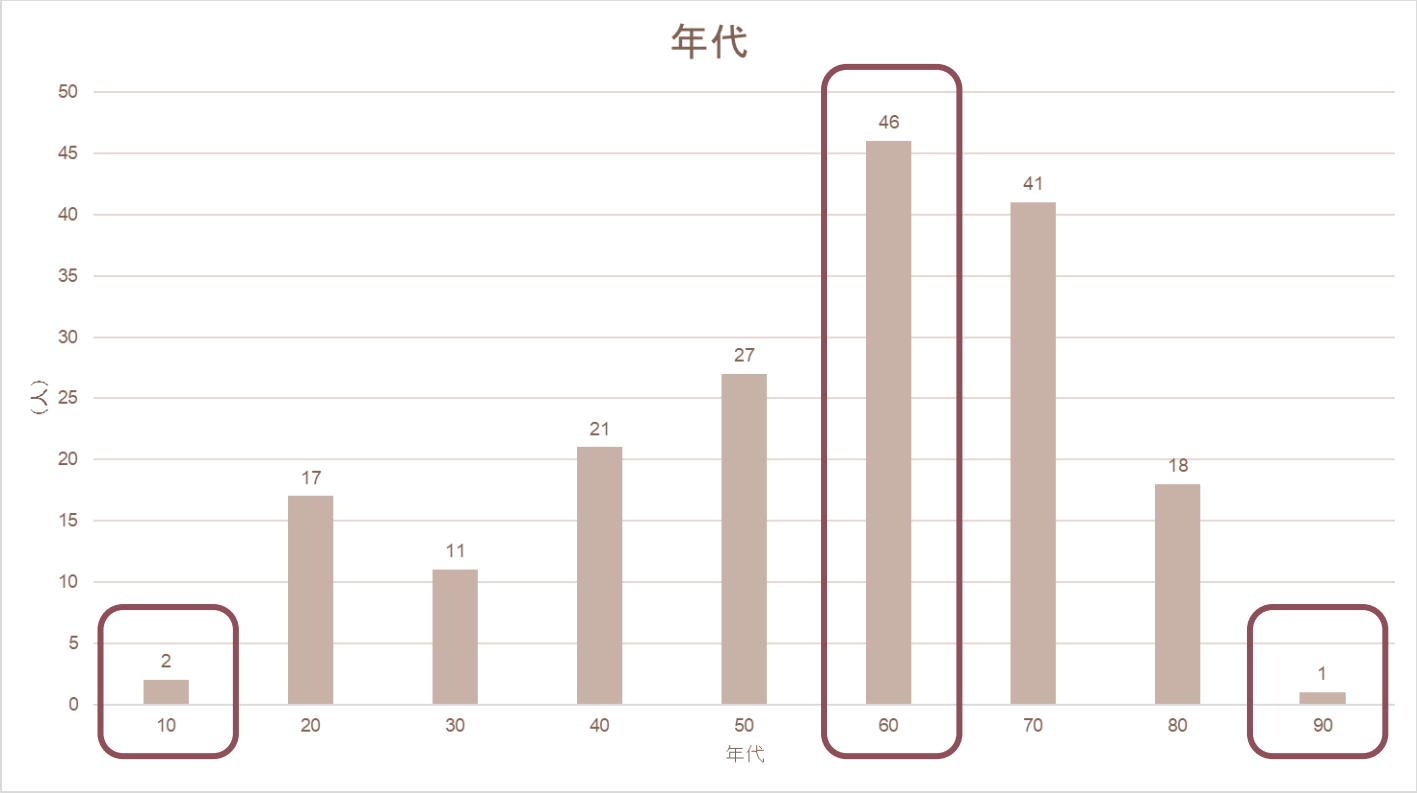
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。当法人では 2023 年 12 月に、月出地域住民の方々を対象に、計画施設、医療･介護に関するシンポジウムを計画しております。ご興味がある方には案内をお送りいたしますので、下記の欄にご名前、連絡先（電話番号）をご記入ください。

お名前		連絡先	

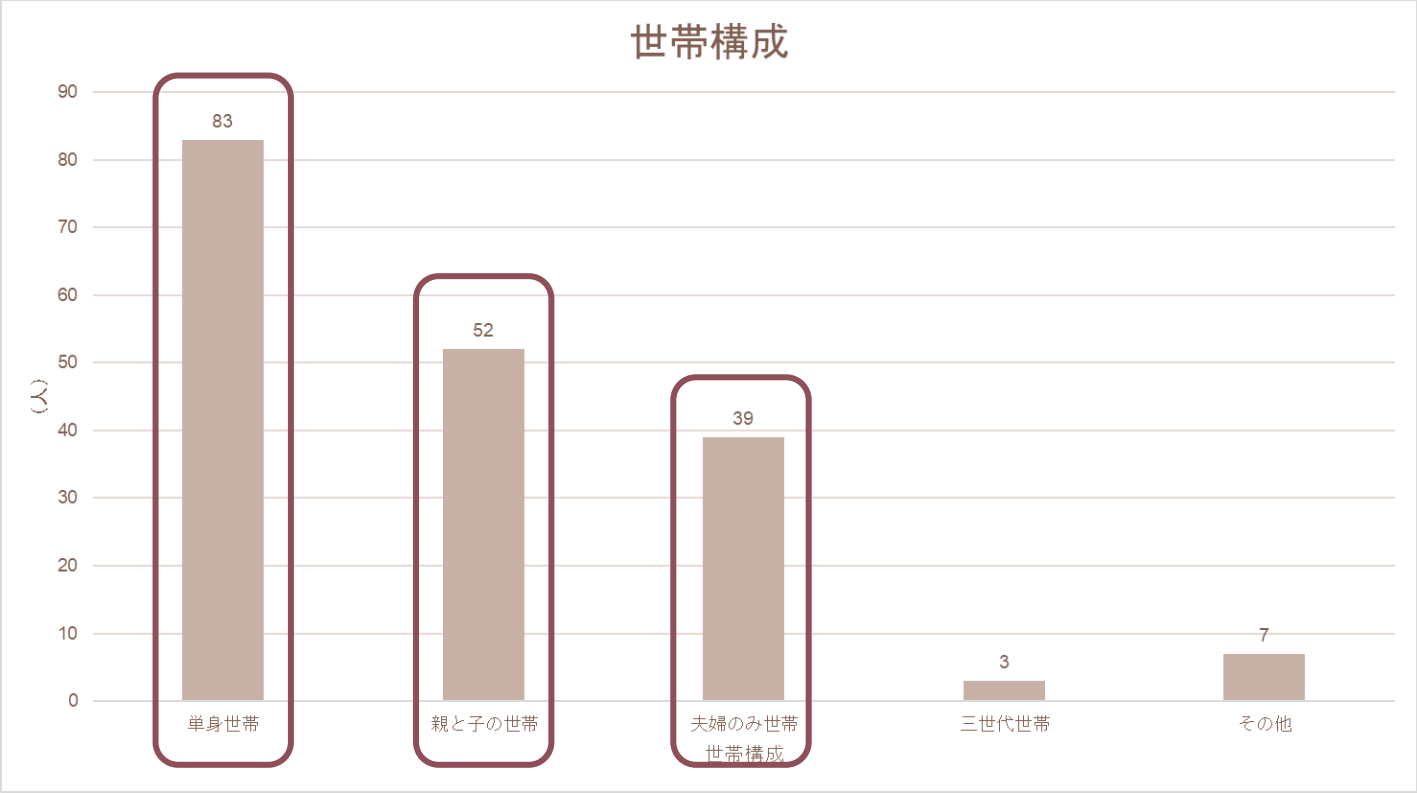
アンケート結果



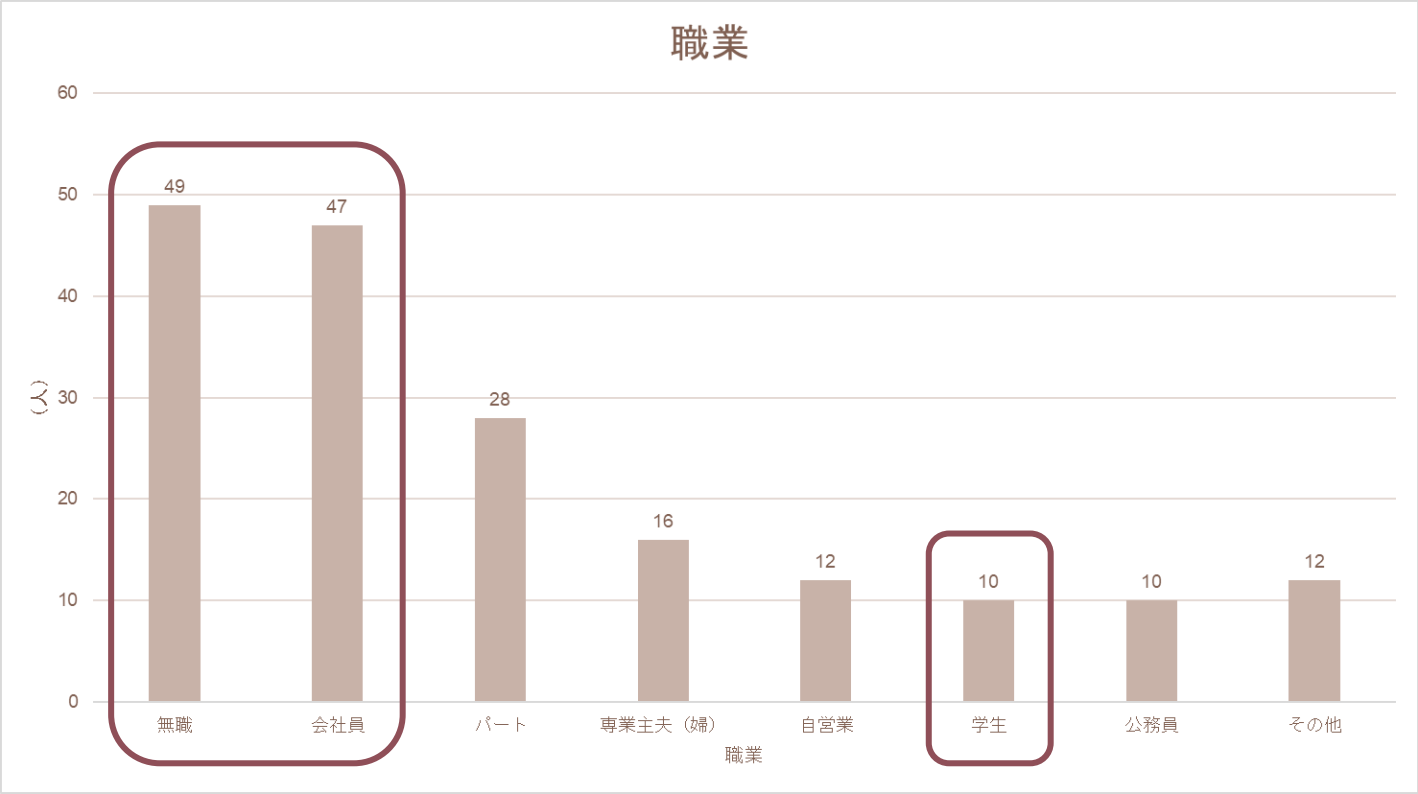
回答年代は60歳台が多い



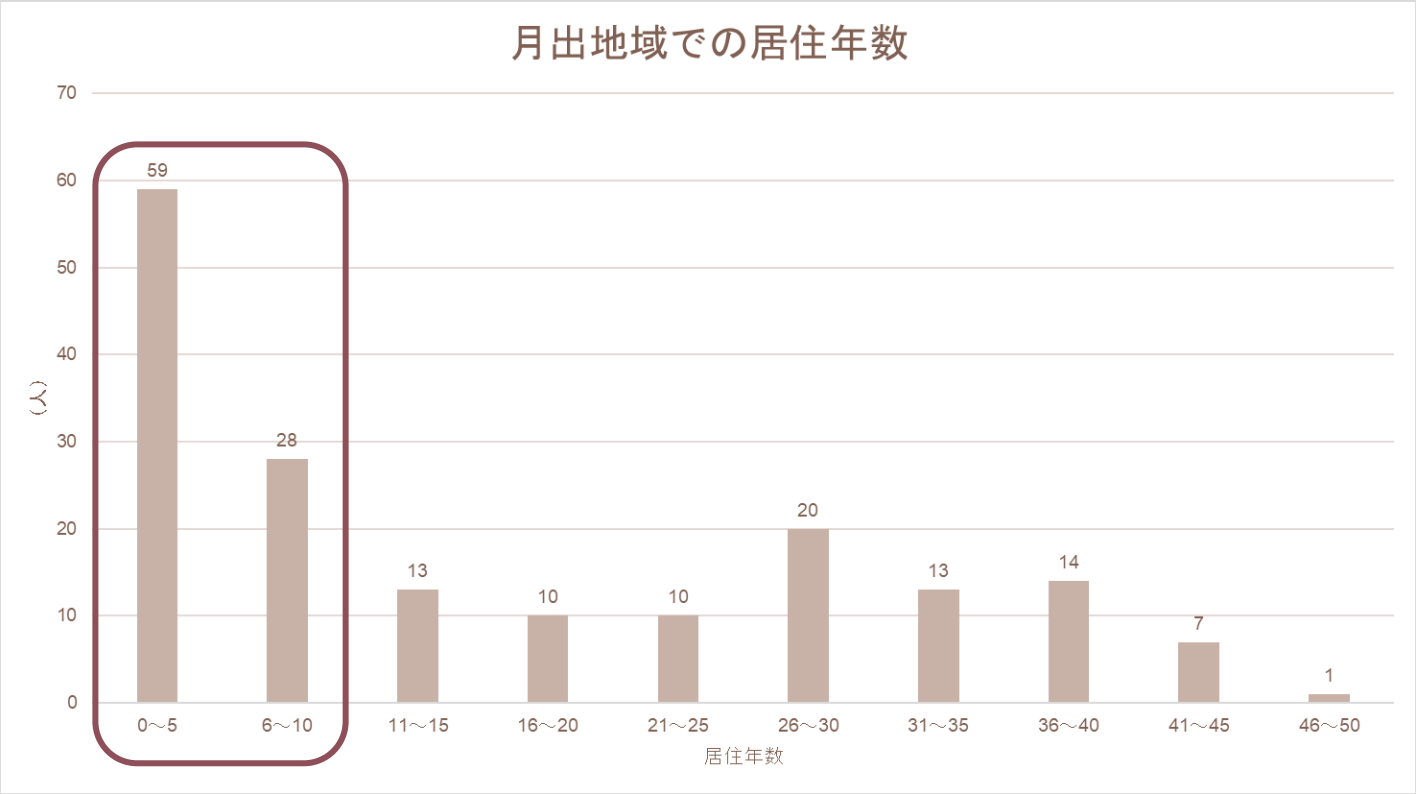
世帯構成は単身世帯が多い



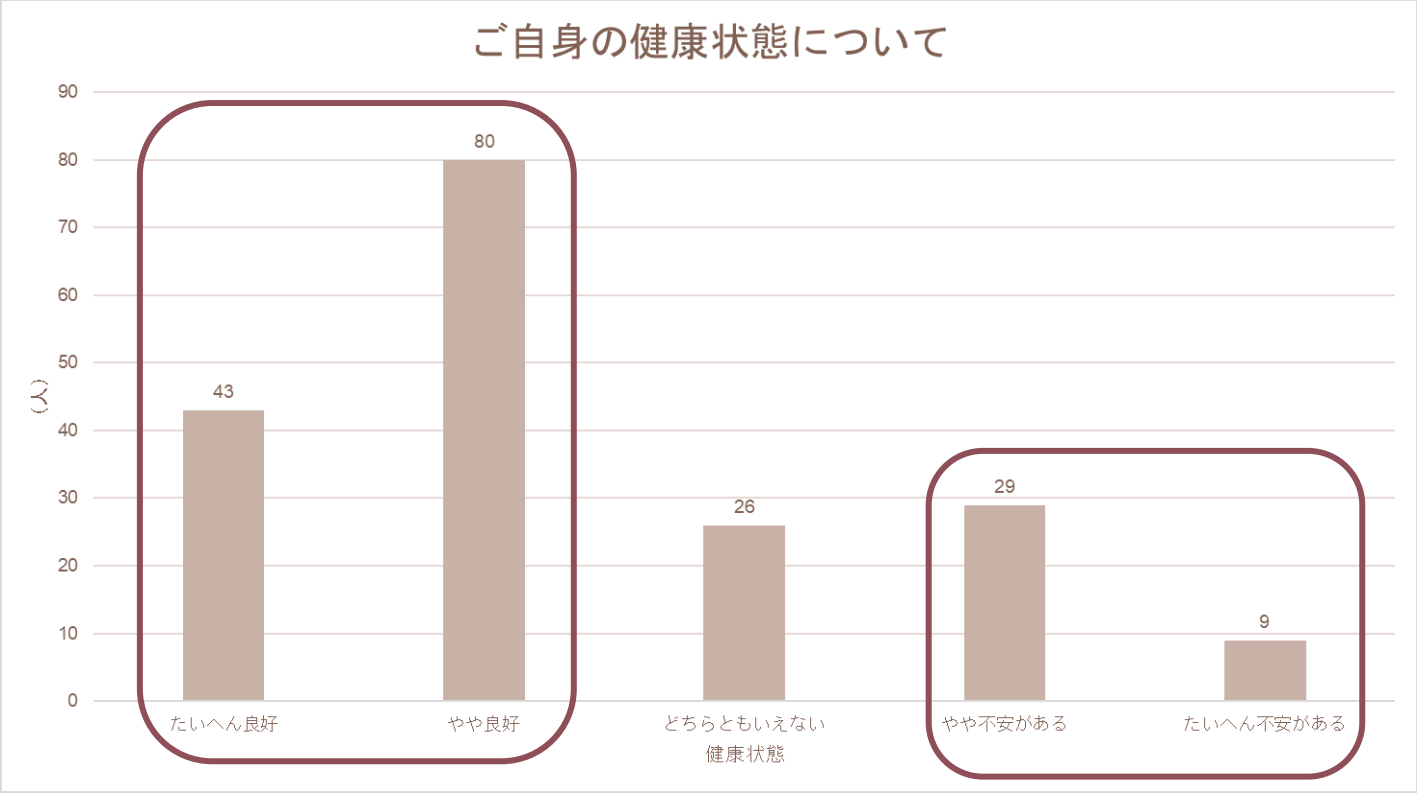
回答者は無職と会社員が多い



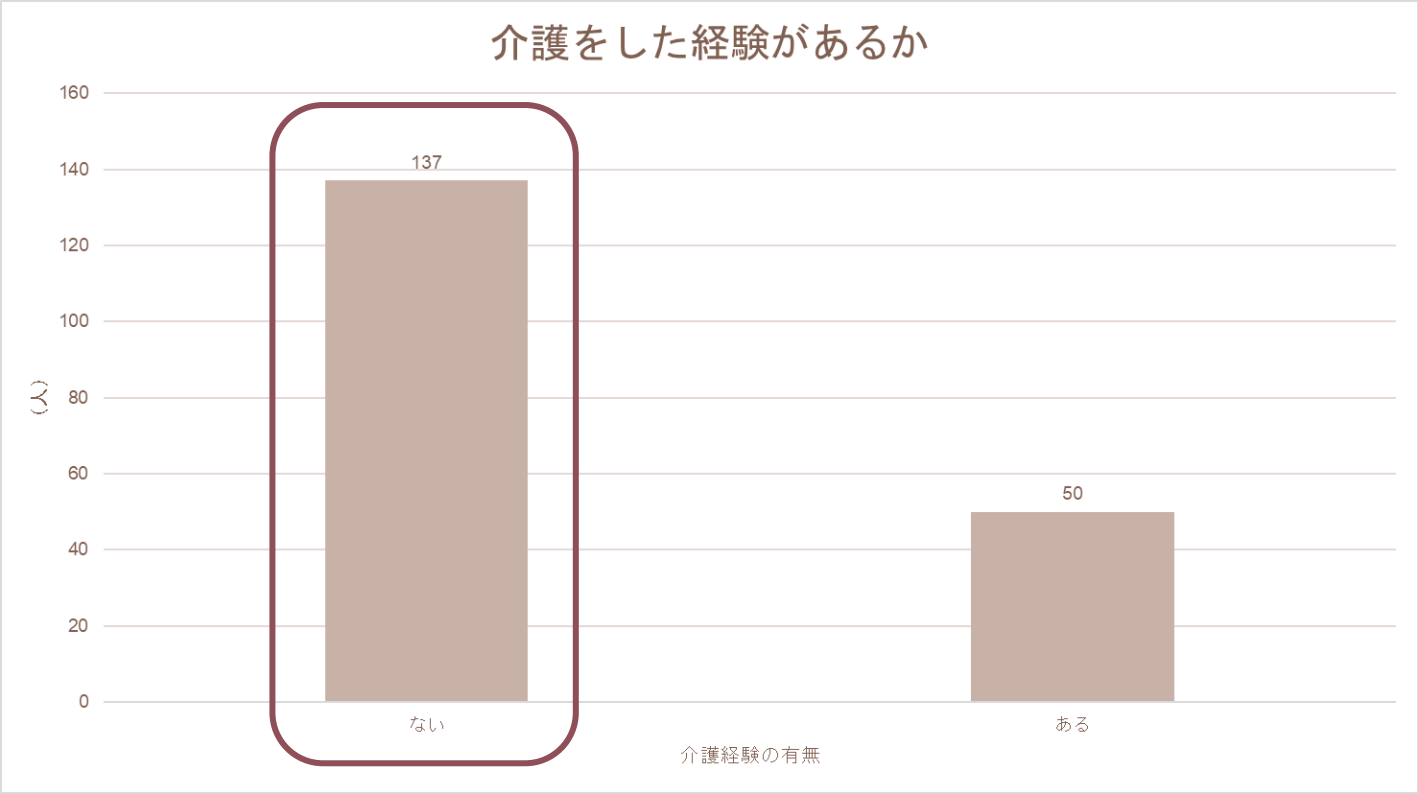
回答者の居住年数は10年以下が多い



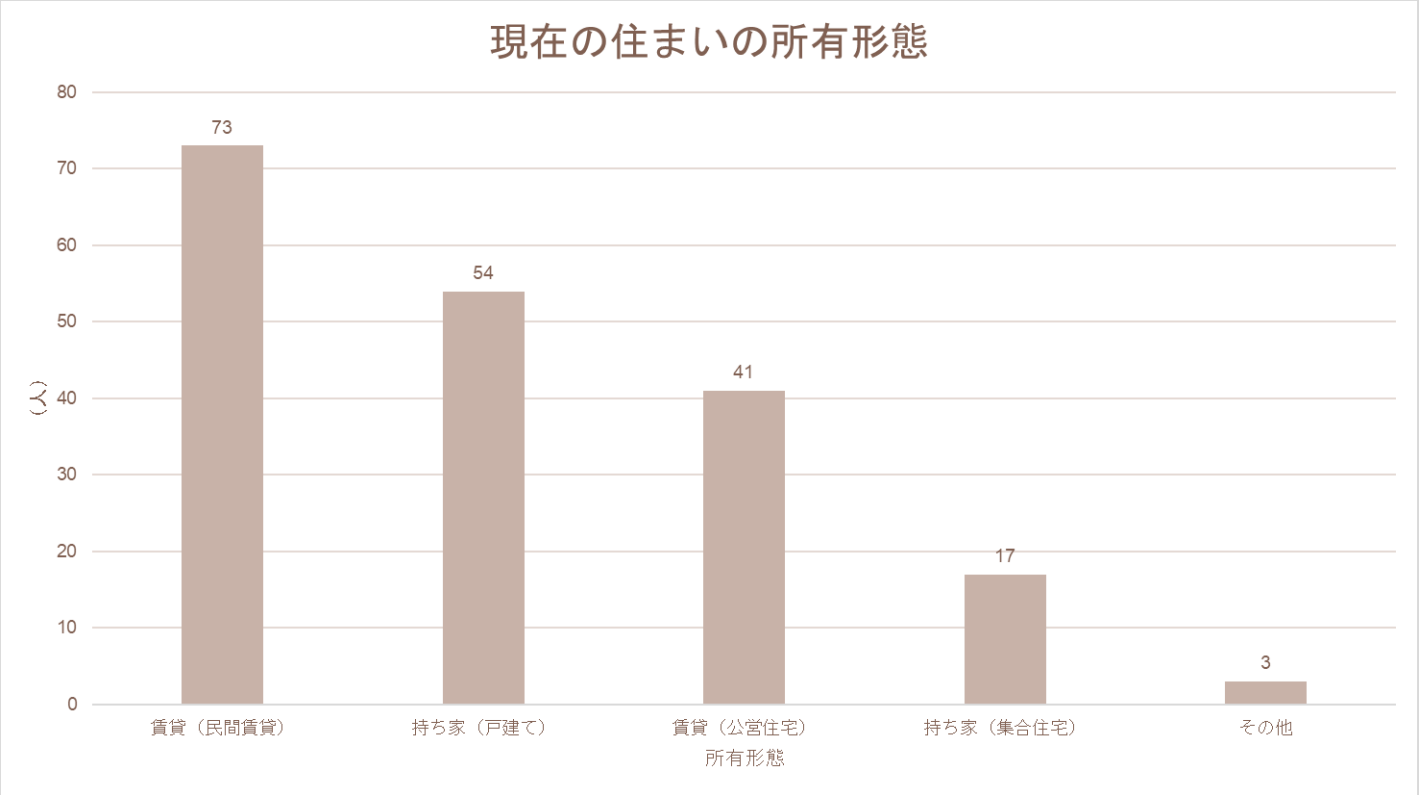
健康状態について


ご自身の健康状態について
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
（人）
43
80
26
29
9
たいへん良好
やや良好
どちらともいえない
やや不安がある
たいへん不安がある
健康状態

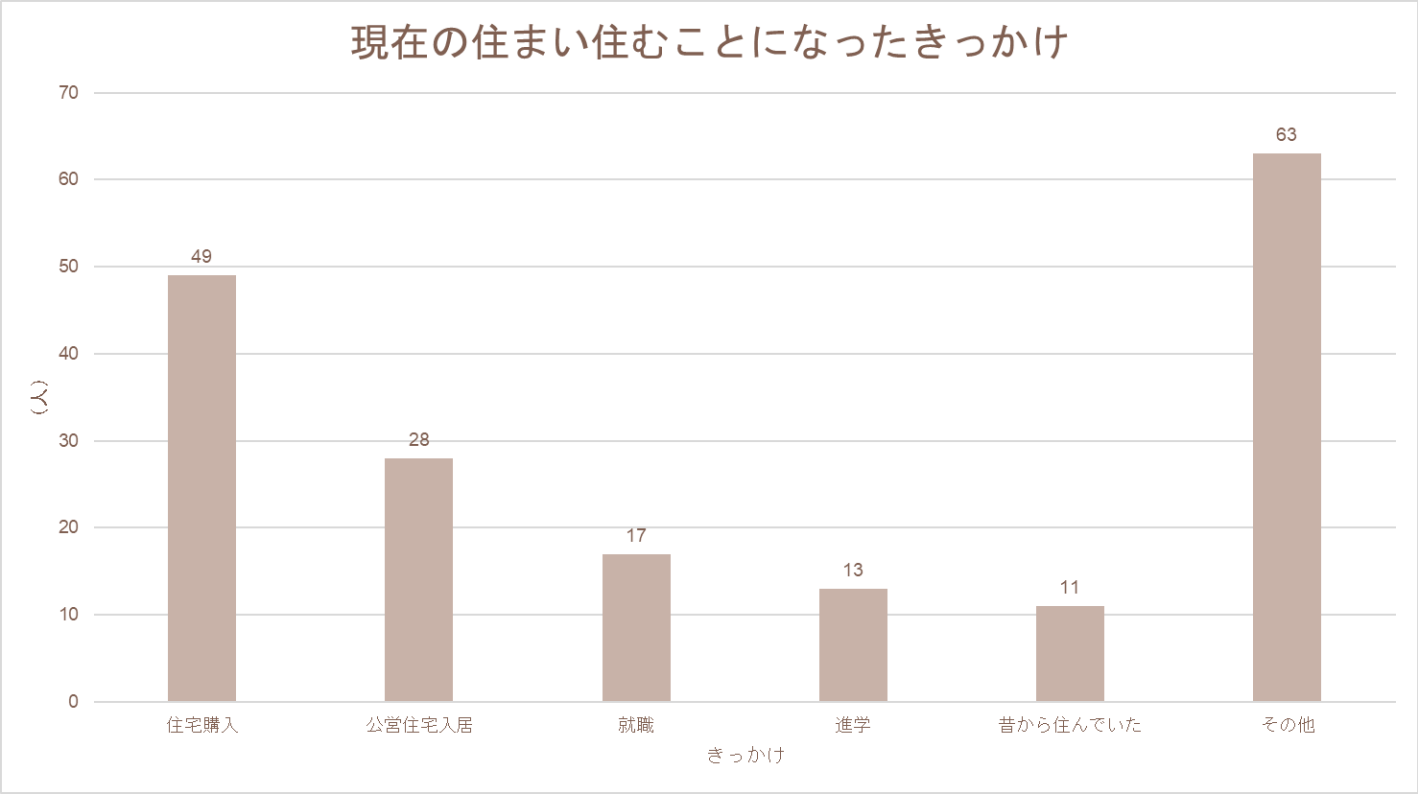
介護の経験



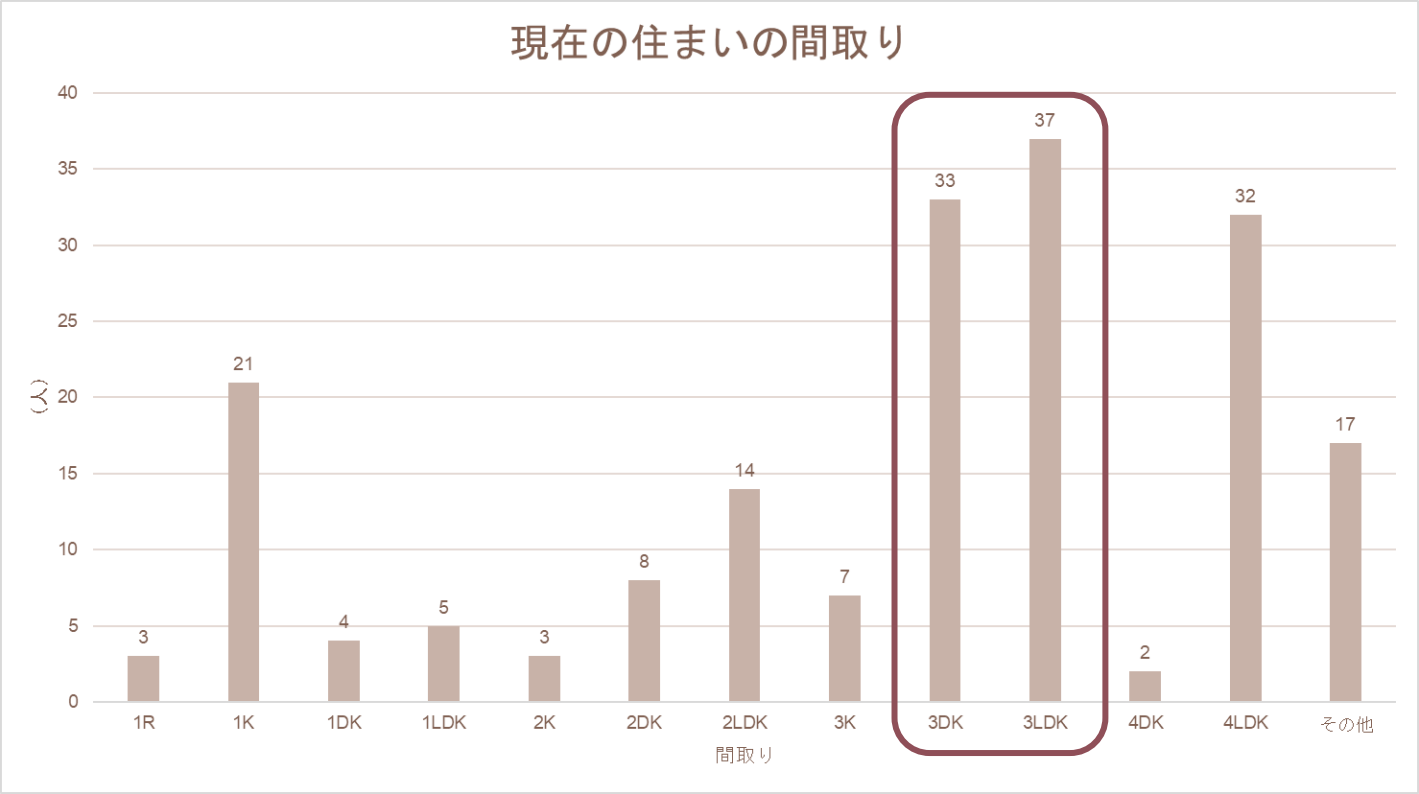
住まいの所有形態


現在の住まいの所有形態
80
70
60
50
40
30
20
10
0
（人）
73
54
41
17
3
賃貸（民間賃貸）
持ち家（戸建て）
賃貸（公営住宅）
持ち家（集合住宅）
その他
所有形態

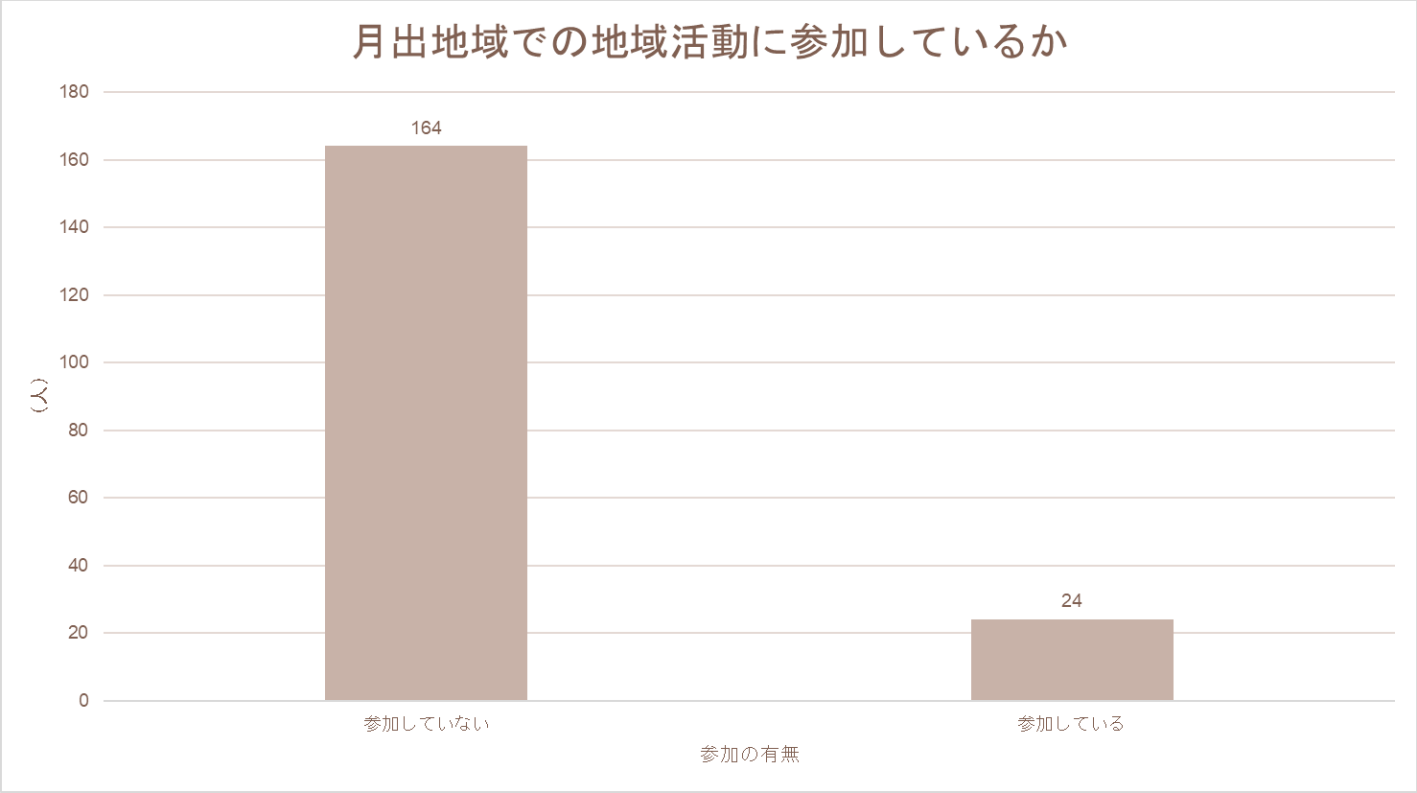
月出校区に住むきっかけは



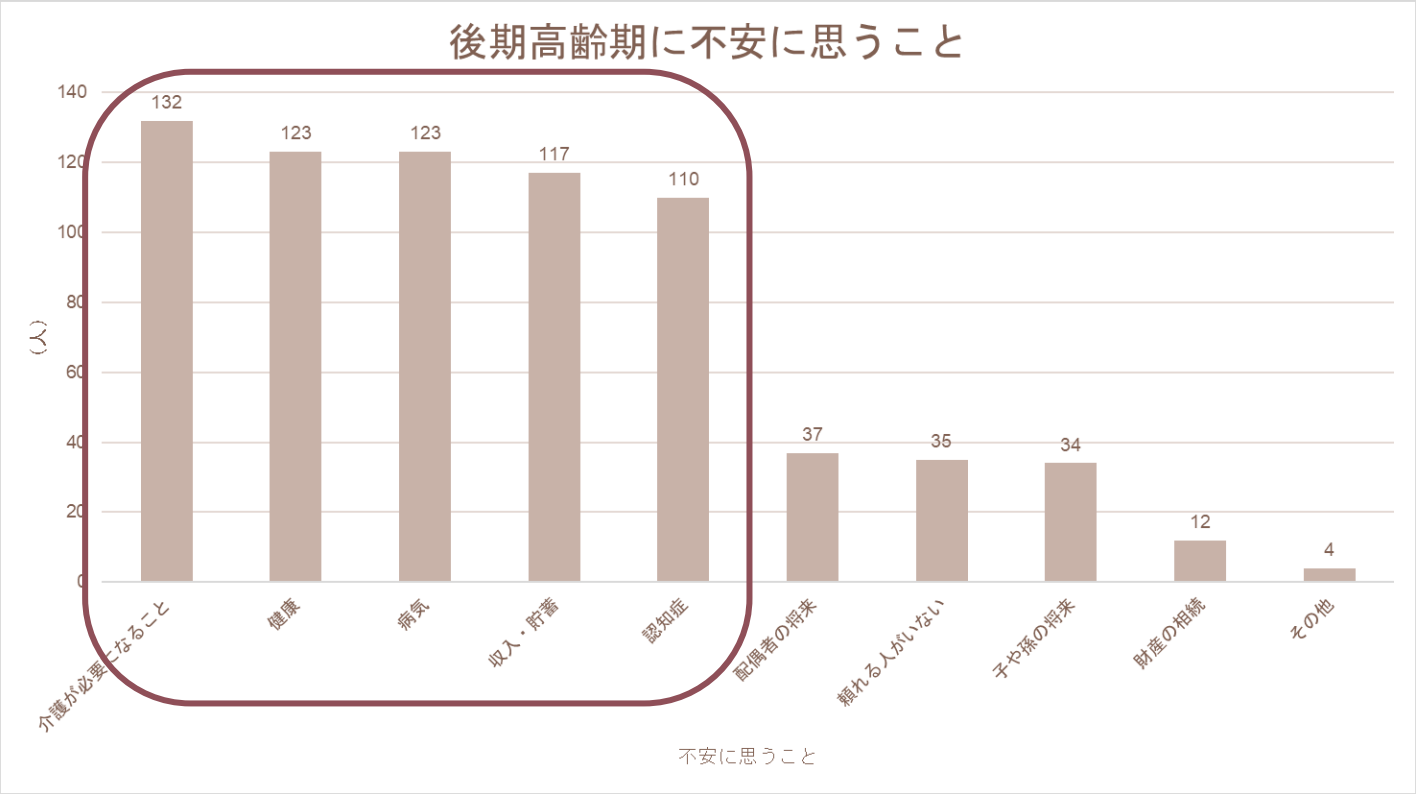
住まいの間取りは3DK・3LDKが多い



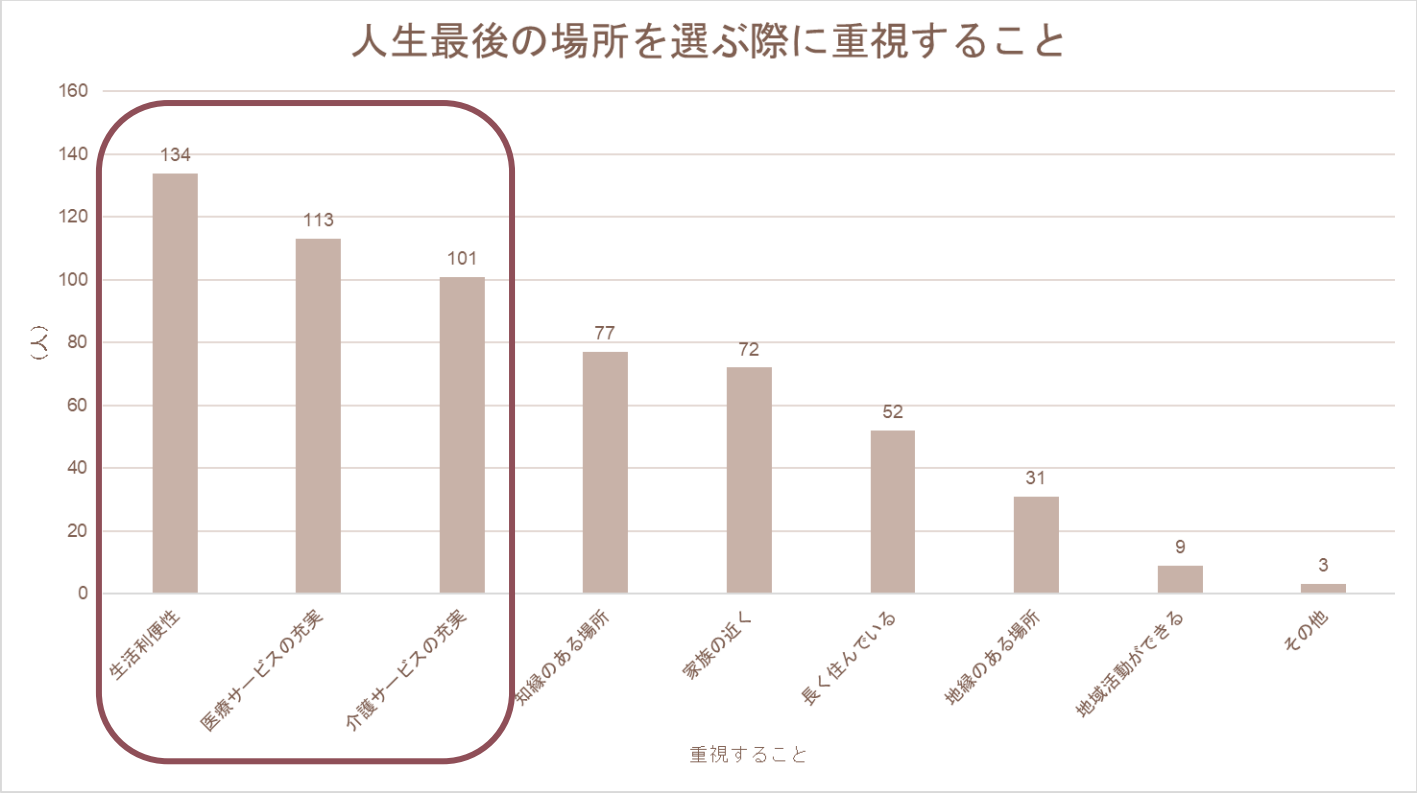
月出地域での地域活動には参加してない方が多い



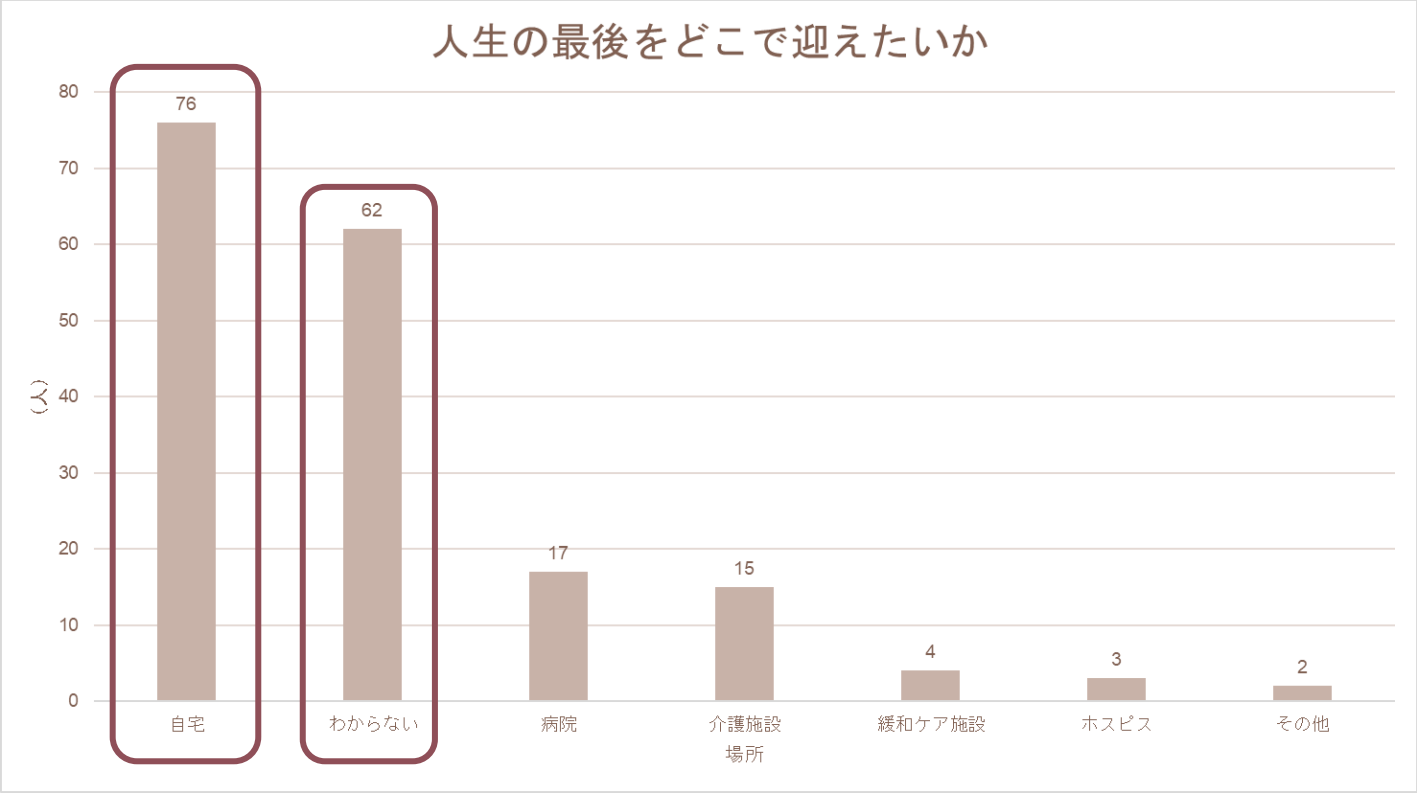
後期高齢期に不安に思うことのトップは介護



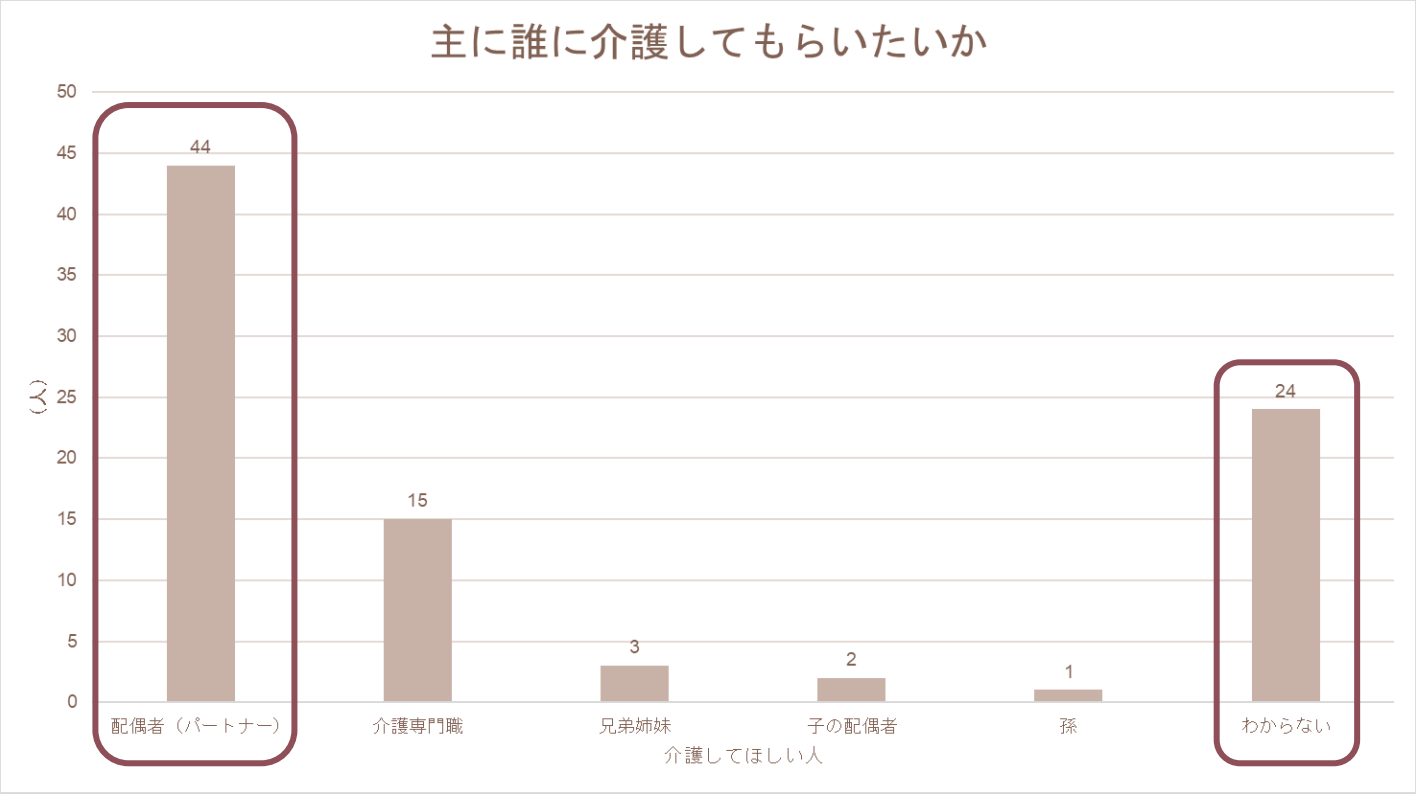
人生の最後の場所を選ぶ際に重視すること



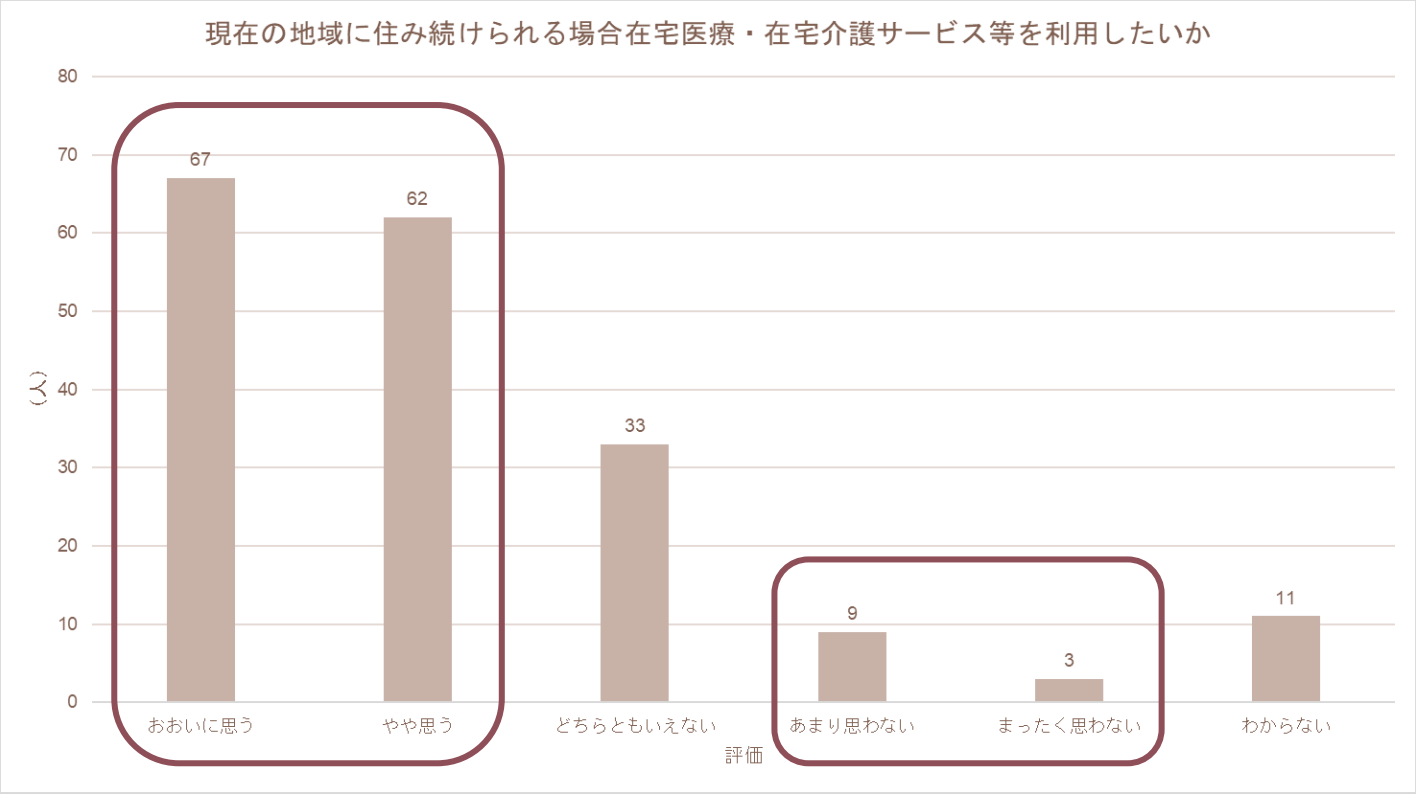
人生の最後をどこで迎えたいか　自宅が多い



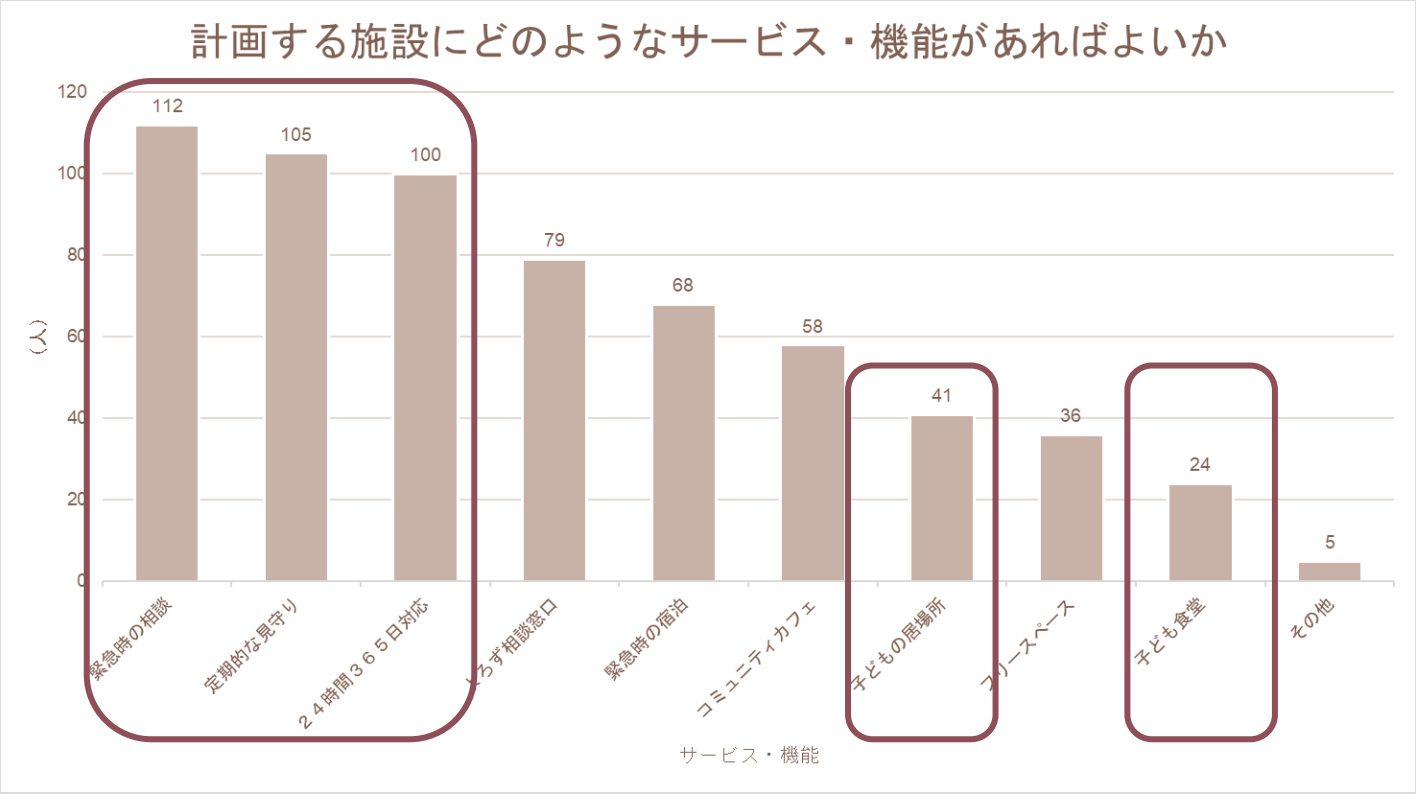
主に誰に介護してもらいたいか



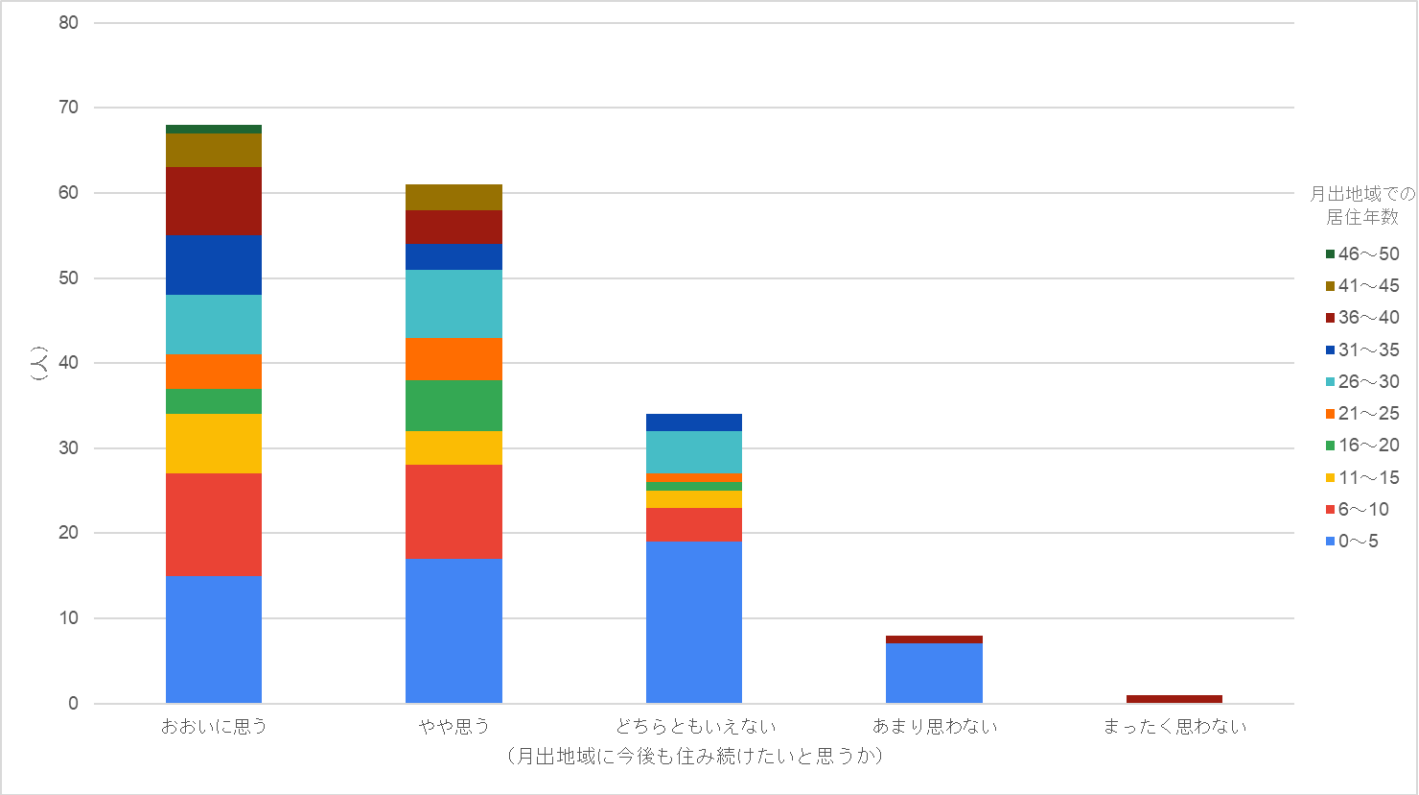
現在の地域に住み続けられる場合在宅医療・在宅介護サービス等を利用したいか



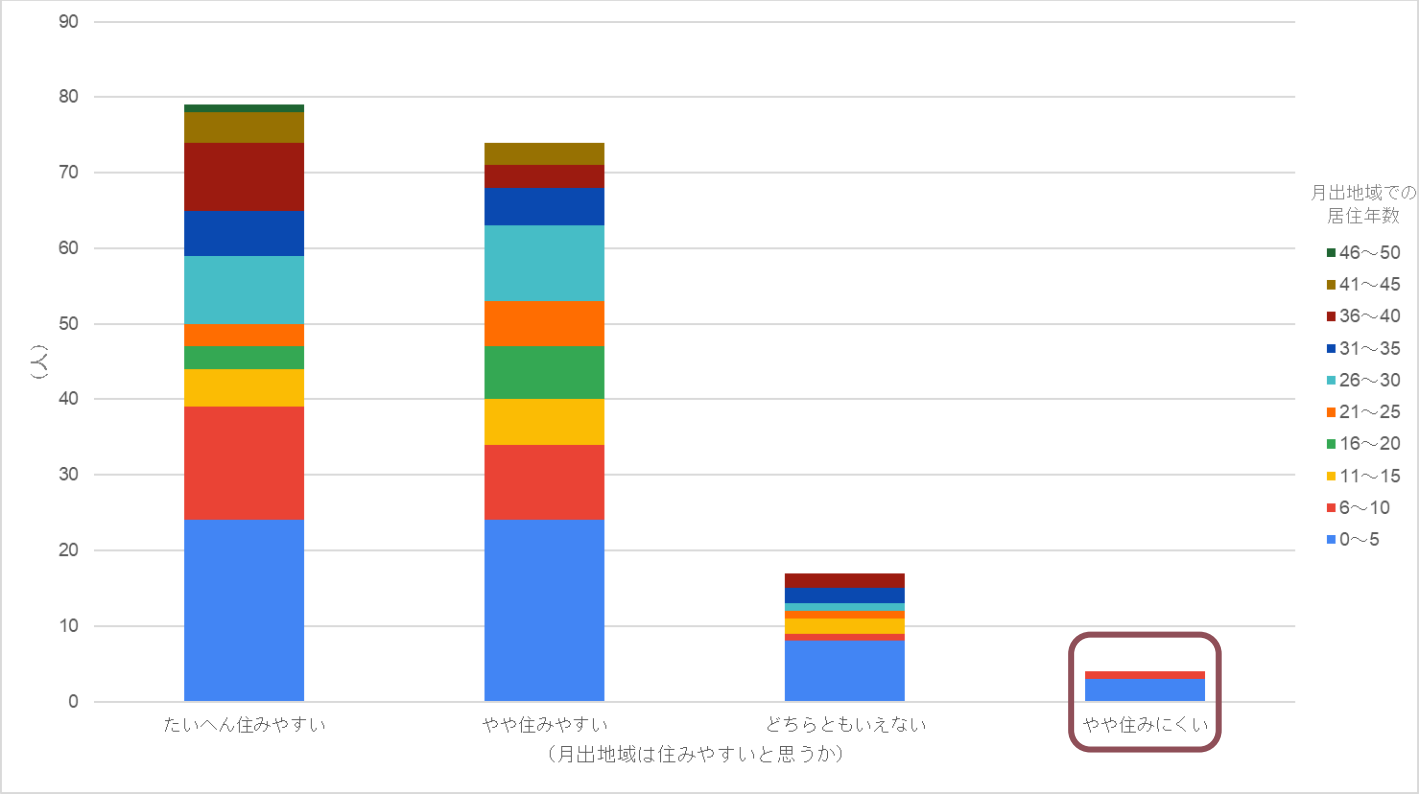
計画する施設にどのようなサービス・機能があればよいか



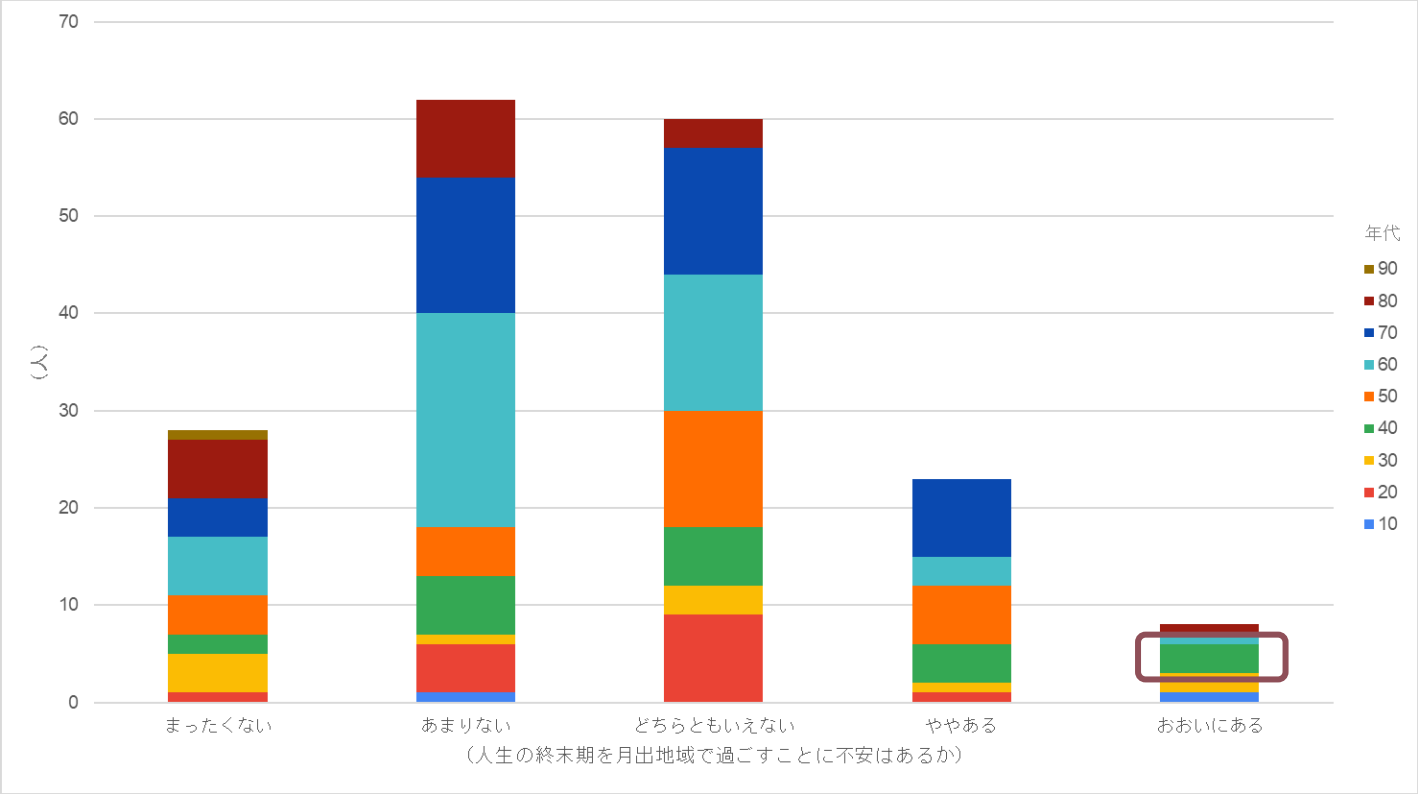
月出地域に今後も住み続けたいか



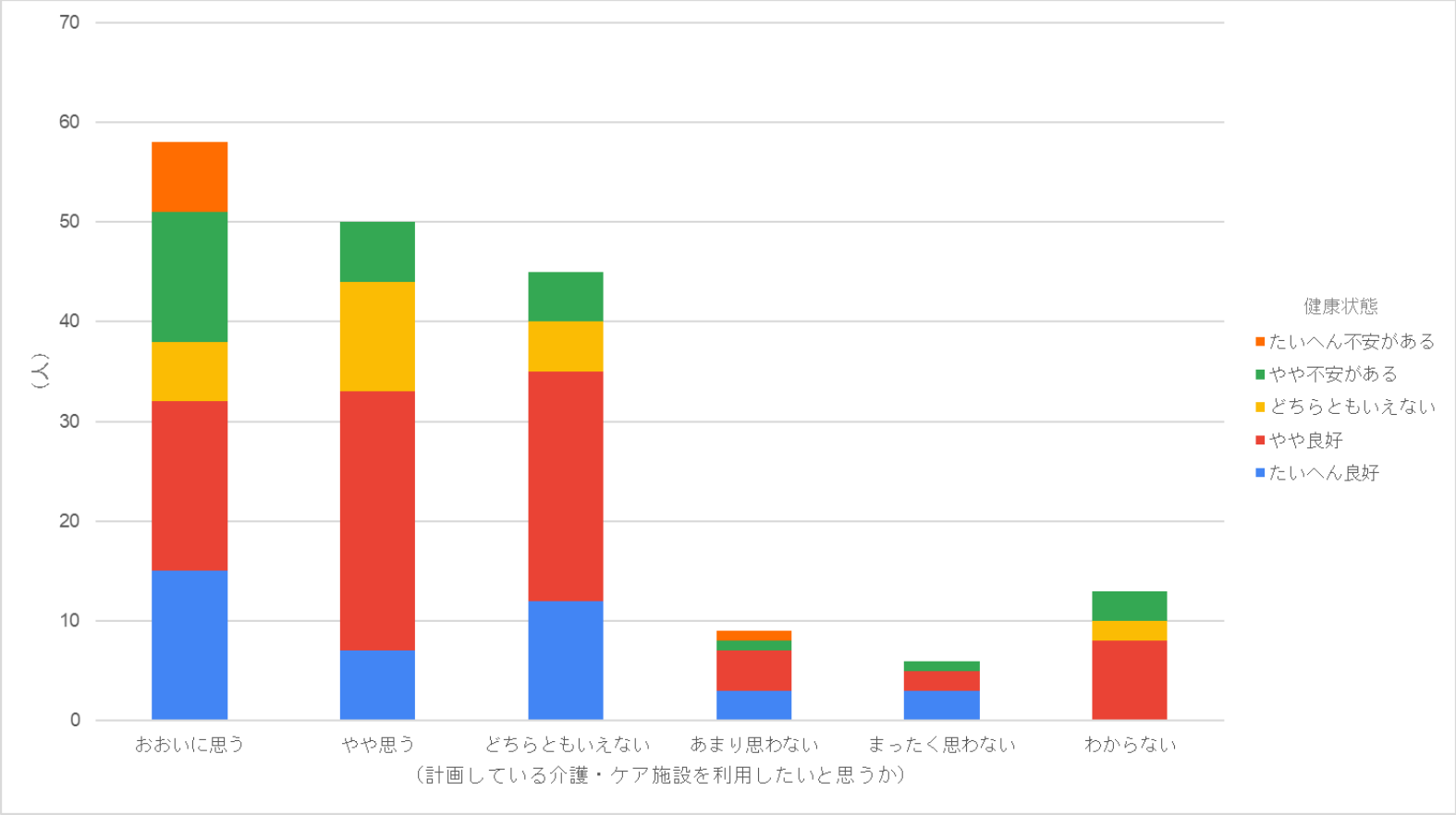
月出地域は住みやすいか



人生の終末期を月出地域で過ごすことに不安はあるか



計画している介護・ケア施設を利用したいか



月出地域に今後も住み続けたい人ほど計画している施設を利用したいという傾向が見られた

【アンケートまとめ】

・モデルとした月出地域は住みやすく、今後も住み続けたい人が多い。
また、地域の利便性は良い。
しかし渋滞がひどいことが不満となっている。
・後期高齢期に不安に思うことは、自身の健康状態と介護
・計画している小規模多機能施設については、アンケートに応じた方の約60%が利用したいと回答した。
・施設に欲しい機能は、24時間365日対応・緊急時の相談・定期的な見守りであった。

１．技術の検証（3）地域ケアステーション整備事業

①検証の目的・問題意識

ケアステーションに求められる機能・デザインの作成

②仮説の設定

地域の困りごとをワンストップで解決できる地域ケアステーション=丸ごとセンター構想をハード面でも実現する。
相談・支援に合わせて、多様な世代の交流が図れ、かつ住まいと医療・介護が統合するモデルを描く。

１．技術の検証 （3）地域ケアステーション整備事業

③検証方法

地域の困りごとをワンストップで解決できる地域ケアステーション構想を立案する
相談支援に合わせて、多様な世代の交流が図れ、かつ住まいと医療・介護が統合する設えを検討する。

・成功事例を収集し、建築設計に生かす
　12ケ所の視察
・地域ケアステーションの計画案を作成し、コンパクトなケア拠点に必要な空間構成についての検証を行う。
・地域住民（子ども、大学生を含む）のワークショップを行い、計画案に反映させていくコンセプト、地域機能を明らかにする。
(R5.3～12、毎月1回程度を予定し基本構想図を作成する)

④検証の結果

地域ケアステーション構想立案書を作成した。

それを「令和6年度熊本市高齢介護福祉施設整備に係る事業者応募計画書」として熊本市に提出し、整備費の補助を受けるように取り組んだ。

【プロセス】
先進的取り組みを行っている施設への視察を8回12ケ所実施した。
視察ごとに参考となる取り組みを構成メンバーと共有し、構想に肉付けしていった。
それを、確保した建設予定地にどのように実現するか検討し、添付の「丸ごとセンター月出」の構想を作成した。
更に、その中の新規建築分について、熊本市の整備補助金の申請を行った。
申請分については、R6年2月末に決定する予定である。

【整備の骨子】
下記の3拠点を合わせて「丸ごとセンター」と位置付ける
①新規建築:小多機と地域交流スペース(相談・支援拠点、地域交流、レスパイト)
②既存の建物の改修:地域・子ども食堂、働く場
③連携法人の訪問看護:①②の近隣に移行

今回の計画に向けて　視察を行った事業所

- マギーズ東京、暮らしの保健室(東京)
- 春日台センターセンター(神奈川)
- あおいけあ・ノビシロハウス(同)
- シェア金沢(石川県)
- ケアセンターきたおおじ(京都)
- 亀山ベース(広島)
- ケアローソン(同)
- 鞆の浦さくらホーム(同)
- 尾道のおばあちゃんとわたくしホテル　+小多機ゆずっこホームみなり(同)
- アンダンチー(宮城)
- つむぎ八幡平(岩手)
- 美瑛慈光会(北海道)

↑ マギーズ東京　↓ 暮らしの保健室

↑ 春日台センターセンター　↓ あおいけあ

シェア金沢

縁が和

きたおおじ

ケアローソン

鞆の浦さくらホーム

つむぎ八幡平

尾道のおばあちゃんとわたくしホテル

アンダンチー

美瑛慈光会

本事業で検討したこと

丸ごとセンター構想

NPO法人　コレクティブの新しい取り組み

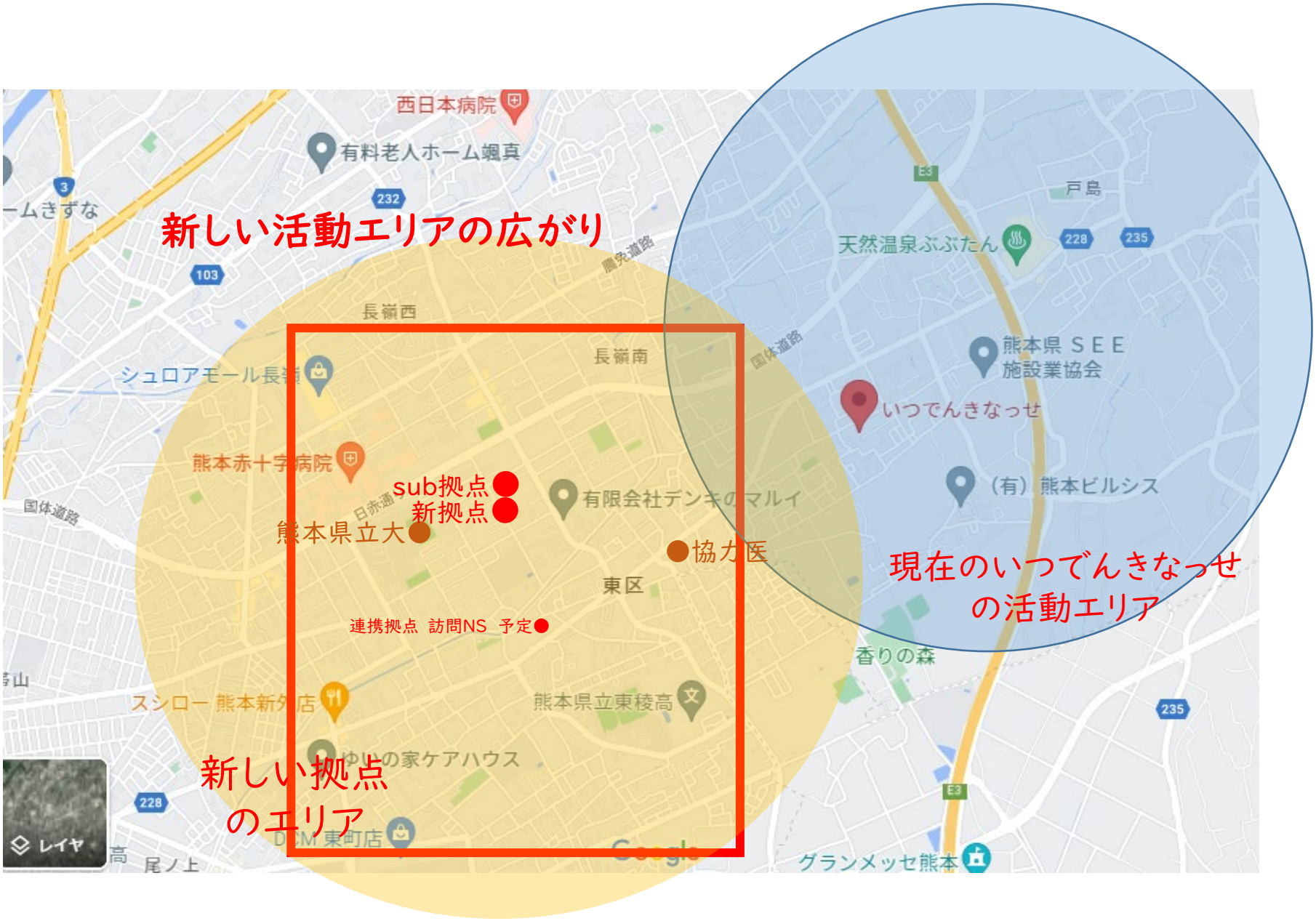
地域交流スペース部分

小規模多機能型居宅介護部分

図中の面積は壁芯面積
括弧内の数値は内法面積
（トイレ、洗面は面積から除外）

※行政庁の指導により内容が変わる場合があります。

新拠点とSub拠点を合わせて、丸ごとセンターと位置付ける


新しい活動エリアの広がり
現在のいつでんきなっせの活動エリア
新しい拠点のエリア
西日本病院
有料老人ホーム颯真
ームきずな
232
103
農免道路
長嶺西
長嶺南
国体道路
シュロアモール長嶺
熊本赤十字病院
日赤通
sub拠点
新拠点
熊本県立大
有限会社デンキのマルイ
協力医
東区
連携拠点 訪問NS 予定
国体道路
スシロー 熊本新外店
熊本県立東稜高
ゆいの家ケアハウス
DCM 東町店
レイヤ
尾ノ上
Google
グランメッセ熊本
香りの森
E3
戸島
天然温泉ぶぶたん
228
235
熊本県 S E E
施設業協会
いつでんきなっせ
(有) 熊本ビルシス

■立地の概要

周辺は病院、大学、住宅がある文教、住宅地域

敷地写真：Google,Yahoo より引用

■立地の概要

サブ拠点

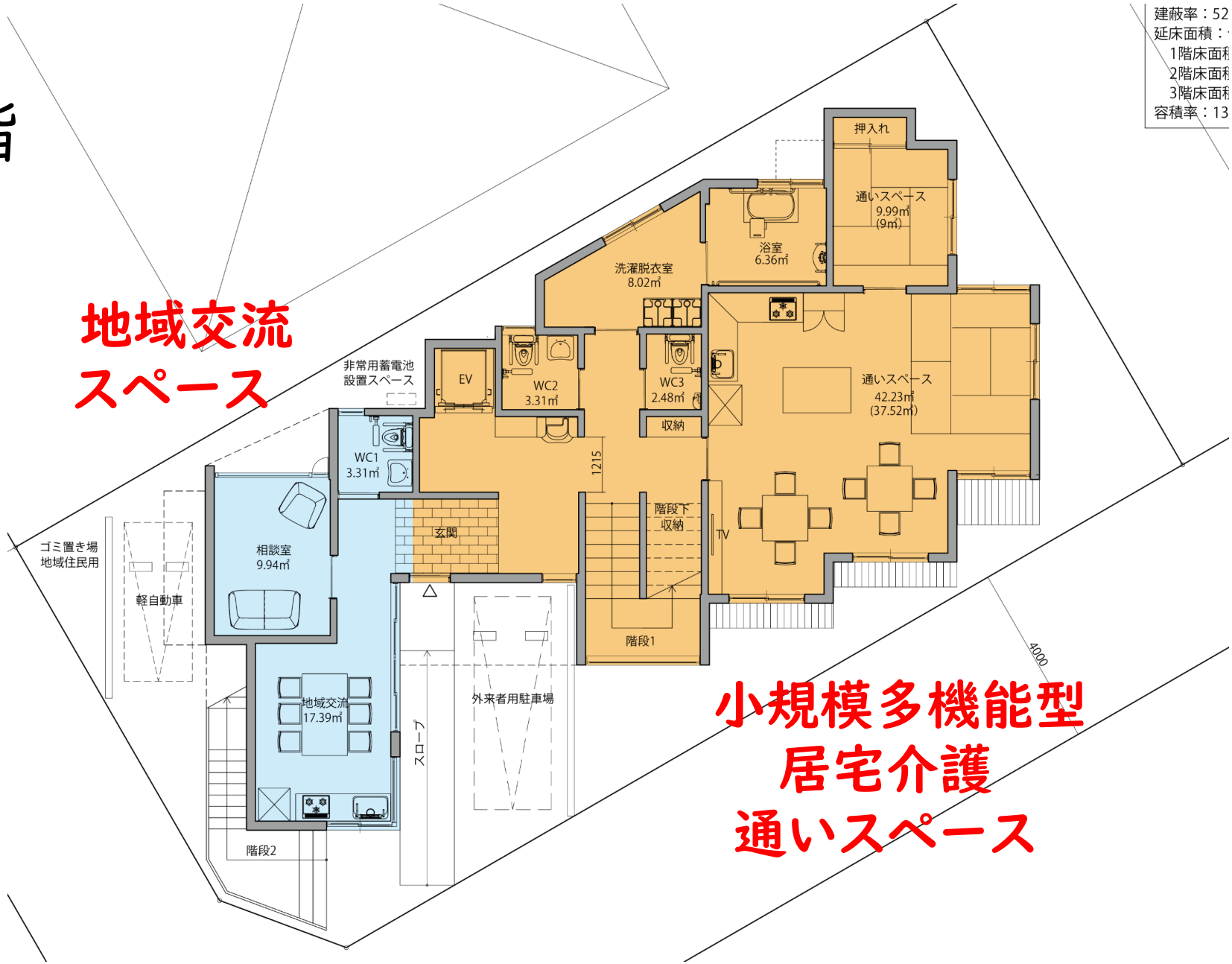
改修を検討

現状の建物
取り壊し新たに新築する予定

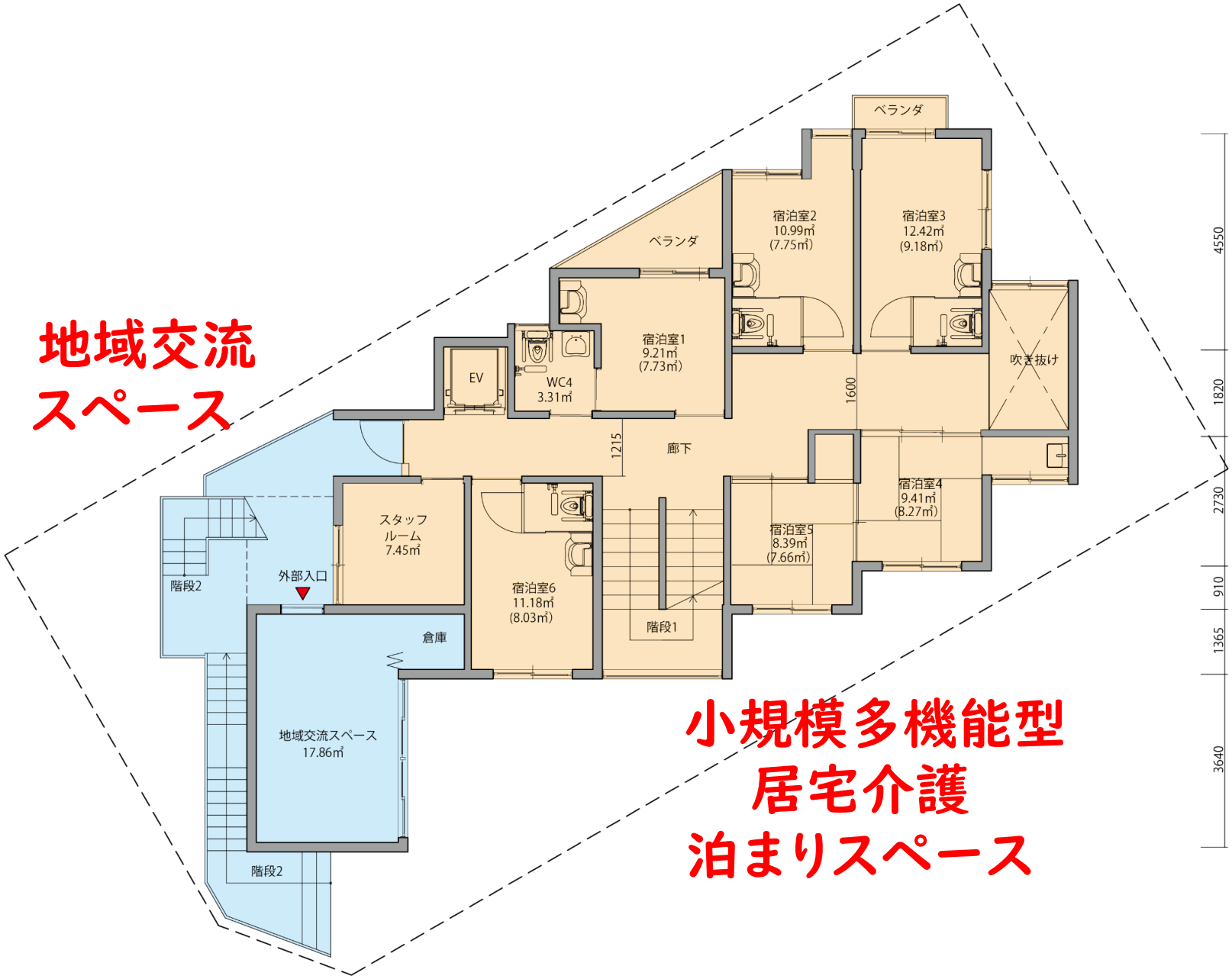
敷地写真：Googleより引用

現在の相談
支援拠点
(仮:借家)

1階


建蔽率：52
延床面積：
1階床面積
2階床面積
3階床面積
容積率：13
地域交流
スペース
小規模多機能型
居宅介護
通いスペース
押入れ
通いスペース
9.99㎡
(9㎡)
浴室
6.36㎡
洗濯脱衣室
8.02㎡
非常用蓄電池
設置スペース
EV
WC2
3.31㎡
WC3
2.48㎡
収納
通いスペース
42.23㎡
(37.52㎡)
WC1
3.31㎡
1215
玄関
階段下
収納
TV
ゴミ置き場
地域住民用
相談室
9.94㎡
軽自動車
階段1
4000
地域交流
17.39㎡
外来者用駐車場
スロープ
階段2

2階


地域交流
スペース
ベランダ
ベランダ
宿泊室2
10.99㎡
(7.75㎡)
宿泊室3
12.42㎡
(9.18㎡)
宿泊室1
9.21㎡
(7.73㎡)
EV
WC4
3.31㎡
吹き抜け
1600
1215
廊下
宿泊室4
9.41㎡
(8.27㎡)
スタッフ
ルーム
7.45㎡
宿泊室5
8.39㎡
(7.66㎡)
宿泊室6
11.18㎡
(8.03㎡)
階段2
外部入口
倉庫
階段1
地域交流スペース
17.86㎡
階段2
4550
1820
2730
910
1365
3640
小規模多機能型
居宅介護
泊まりスペース

3階

ベランダ
地域交流室
緊急時宿泊室2
20.65㎡
ベランダ
シャワー
シャワー
収納
地域交流室
緊急時宿泊室1
12.31㎡
EV
洗濯室
3.31㎡
TV
地域交流室
23.85㎡
外部入口
廊下
1215
外部入口
階段2
地域交流室
緊急時宿泊室3
16.77㎡
階段1
地域交流室
15.94㎡
地域交流スペース

２．情報提供及び普及

①情報提供及び普及内容

当法人のホームページ(http://marugotocenter-tsukide.com)に当事業の広報窓口を創り、取り組み状況を町内会や老人会の会合で広報した。
また、質問・ご意見を受けることができるように案内した。
事例収集を終え、基本構想ができたところで地域の皆様と事業関係者が集い、講師を招き先進的取り組みを学ぶセミナーを開催。
地域に対する広報として、R5年12月実施の講演会と併せてチラシを作成し、校区全世帯7000戸に配布。
(12月8日相談支援の公開勉強会　熊本市国際交流会館:63名参加
12月9日:地域住民の方への講演会　熊本県立大学:30名参加)

②事業効果

地域の公民館や自治会の集まりへ出向いて、相談・支援の窓口の広報やアンケートへの協力要請を行う中で、本取り組みへ関心を持つ方々が増えていった。
特に、個別に地域づくりに取り組みつつも上手くいっていない方や学校で課題を抱えていた方、何らかの地域活動を行いたいと思っていた方から一緒に取り組みたいとの申し出があった。
少なくとも、新たな本取り組みについて好意的に期待する雰囲気となった。

３．総括

事業育成型で「丸ごとセンター(地域ケアステーション)」整備事業として、技術の検証や情報提供及び普及に取り組んできた。その中で、住まい環境整備モデル事業評価委員会の評価概要で次のように指摘されていることへの検討ができた。
「事業の実績を有する提案者が、これまでの現場の課題や取り組みの知見を踏まえ、対象者の在宅生活を支える施設を検討する本提案は、意義が深く、実効性を期待できる。一方、「ごちゃまぜ」型の提案は、既に色々な提案があるため、「ごちゃまぜ」であることの課題や相乗効果を発揮するための仕組み等、系統的な検討を求めたい。また、提案内容には、未確定要素が多いことから、具体的な着地点を見据えた検討が必要である。」

〇この一点目の系統的検討は、多様な先進事例に学び自らのビジョンとするための検討を経て仕組みを含めて明らかになった。

- 地域で暮らし続けるために「施設に欲しい機能は、24時間365日対応・緊急時の相談・定期的な見守り」であった。この機能を発揮できる設えが柱になり、地域を支援できる拠点としての小規模多機能がある。その小多機が地域支援事業を併せ持つ仕組みとする。

〇二点目の具体的着地点については、整備する地域の特性に合わせ、また建設地に合わせた検討から具体化できた。

- 上記を「丸ごとセンター」と位置付けるが、一箇所の建物に集中させる必要はない。
  ①新規建築:小多機と地域交流スペース(相談・支援拠点、地域交流、レスパイト)
  ②既存の建物の改修:地域・子ども食堂、働く場
  ③連携法人の訪問看護:①②の近隣に移行予定(R7.3までに)

こうした三拠点を合わせトータルで機能させることにする。
広い敷地がない都市部でも普及できる仕組みとなる。